

令和7年度
教育委員会の活動状況に関する
点 検 ・ 評 価 報 告 書

令 和 8 年 9 月

蘭 越 町 教 育 委 員 会

は　じ　め　に

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき、教育委員会は毎年、その権限に属する事務の管理及び執行状況について点検・評価を行い、議会への報告及び公表を行うこととされています。

蘭越町教育委員会では、教育行政の一層の充実と町民の皆様への説明責任を果たすため、平成２０年度から継続して点検・評価を実施してまいりました。本報告書は、令和６年度に改定した「蘭越町教育推進計画」（令和７年度から令和１１年度）に基づき、各施策の取組状況を確認し、成果と課題、今後の方向性を整理したものです。

近年、少子高齢化や人口減少、情報通信技術の進展、グローバル化の進行に加え、子どもたちを取り巻く環境や価値観は大きく変化しています。また、コロナ禍を経て、学びの在り方や人とのつながり、多様性を尊重する視点の重要性も一層高まっています。

こうした中、蘭越町教育推進計画が目指す、ふるさと蘭越への誇りと愛着を育み、一人一人が自らの可能性を伸ばし、これからの社会をたくましく生きる力を身に付ける教育の実現に向け、学校・家庭・地域が連携しながら、子どもから大人まで誰もが学び続けることのできる環境づくりを進めてまいります。今後も、本報告書で明らかとなった課題を踏まえ、施策の改善と充実を図りながら、町民の皆様信頼される教育行政を進めてまいります。

結びに、点検・評価にあたり貴重な御意見をいただきました蘭越町教育委員会点検評価外部評価委員会の委員各位に、心から感謝申し上げます。

令和８年９月

蘭越町教育委員会

目 次

第1章 教育委員会の活動状況

1	教育委員会委員名簿	1
2	教育委員会の会議の開催状況	1
3	条例・規則等並びに各種計画等の制定及び改正	3
	(1) 条例・規則・要綱等の制定、改正及び廃止	
	(2) 主な計画の策定	
4	教育委員会委員の活動状況	4
5	各種委員会等の活動状況	4
6	令和7年度予算の状況	7
7	行政改革（組織機構）の取組について	8
	(1) 組織体制の見直し	
	(2) 事務事業等の見直し	
8	教育関係者の表彰等	9
	(1) 蘭越町文化功労者表彰	
	(2) 蘭越町スポーツ表彰	
	(3) 関係団体表彰	

第2章 令和7年度教育推進計画に基づく評価（内部評価）

1	確かな学力の育成	1 1
2	特別支援教育の充実	1 4
3	国際理解教育の充実	1 6
4	情報教育の充実	1 8
5	道徳教育の充実	2 0
6	ふるさと教育の充実	2 2
7	読書活動の推進	2 5
8	生徒指導・教育相談の充実	2 7
9	体力・運動能力の向上	2 9
10	食育の推進	3 1
11	学校段階間の連携・接続の推進	3 3
12	学校運営の改善	3 5
13	学校安全教育の充実	3 6
14	学校と地域の連携・協働の推進	3 8
15	地域に根ざした高校づくりに向けた支援	3 9
16	生涯学習関連施設の整備・管理運営と効果的な利活用の推進	4 0
17	誰もが参加しやすい環境づくりの推進	4 2
18	地域人材の活用に向けた発掘と養成	4 3
19	多様な学習機会の提供と充実	4 4
20	芸術・文化活動の充実	4 5
21	学習成果の活用推進	4 6
22	学びを通じた地域活性化の推進	4 7
23	みんなが集う花一会図書館	4 8
24	外に飛び出す図書館活動	5 0
25	生涯にわたるスポーツ活動の推進	5 2
26	児童生徒のスポーツ活動の充実	5 3
27	スポーツ環境の充実	5 5

第3章 外部評価

1	外部評価委員による評価・意見・・・・・・・・・・	56
資料		
1	教育委員会行政組織機構図・・・・・・・・・・	1
2	学校の児童生徒・教職員数・・・・・・・・・・	2
3	施設利用者数・・・・・・・・・・	3
	(1) 町民センター利用者	
	(2) 町民プール利用者	
	(3) 体育施設利用者	
	(4) 目名サッカー場利用者	
	(5) トレーニング室利用者	
	(6) 花一会図書館利用者	
4	学校評価の概要・・・・・・・・・・	4
	・ 昆布小学校	
	・ 蘭越小学校	
	・ 蘭越中学校	

第 1 章 教育委員会の活動状況

第 1 章 の ポ イ ン ト

教育委員会委員名簿、会議の開催状況、条例・規則等の制定及び改正、委員・各種委員会の活動状況、教育関係者の表彰など、令和 7 年度に教育委員会が行った活動状況について整理しています。
--

1 教育委員会委員名簿

職 名	氏 名	任 期
委 員	西 澤 雅 明	平成 16 年 10 月 23 日～令和 10 年 10 月 22 日
委 員	高 橋 浩 之	令和 2 年 10 月 23 日～令和 10 年 10 月 22 日
委 員	宮 武 かおり	令和 5 年 12 月 21 日～令和 9 年 12 月 20 日
委 員	安 田 智恵子	令和 5 年 12 月 21 日～令和 9 年 12 月 20 日
教 育 長	渡 邊 貢	令和 6 年 12 月 20 日～令和 8 年 12 月 19 日

2 教育委員会の会議の開催状況

蘭越町教育委員会の会議は、おおよそ毎月 1 回開催しており、緊急の案件がある場合には臨時の会議を開催しています。

この会議において、教育長と 4 名の教育委員が教育行政の基本方針の決定、教育に関する条例及び規則等の制定や改正など、様々な議題について審議しています。

期 日	付 議 案 件 等
第 4 回 令和 7 年 4 月 28 日	(報告) (1) 小中学校の体罰等に係る実態把握、対応状況について (審議) (2) 蘭越町教育大綱の改定について (3) 蘭越町特別支援連携協議会委員の任命について (4) 蘭越町教育支援委員会委員の任命について (5) 蘭越町学校給食センター運営委員会委員の委嘱について (6) 蘭越高等学校教育振興対策事業実施要綱の一部を改正する告示 (案) について (7) 蘭越町体育振興奨励事業補助金交付要綱の一部を改正する告示 (案) について (8) ふるさとらんこし未来応援奨学金奨学生の採用について (9) 蘭越町放課後子ども教室運営委員会委員の委嘱について
第 5 回 令和 7 年 6 月 5 日	(報告) (1) 学校職員の交通事故等に係る指導等について (2) 蘭越町学校運営協議会委員の任命について (承認) (3) 令和 7 年度要保護・準要保護児童生徒の認定について (審議) (4) 令和 7 年度一般会計教育費補正予算について (協議) (5) 蘭越町立学校の教職員に係る超過在校等時間の公表について (6) 教育委員視察研修について
第 6 回 令和 7 年 6 月 23 日	(報告) (1) 職員の懲戒処分等について (協議) (2) 令和 7 年度第 1 回教育委員学校訪問について
第 7 回 令和 7 年 8 月 8 日	(報告) (1) 学校職員の交通事故等に係る指導等について (2) 令和 7 年度全国学力・学習状況調査の結果について (3) 令和 7 年度一般会計教育費補正予算について (協議) (4) 令和 7 年度第 1 回教育委員学校訪問結果について (5) 教育委員会の当面のスケジュールについて

第8回 令和7年 9月10日	(審議) (1) 令和8年度使用小学校用教科書の採択について (2) 令和8年度使用中学校用教科書の採択について (3) 令和8年度使用小・中学校用特別支援学級教科用図書（一般図書）の採択について (4) 令和7年度一般会計教育費補正予算（案）について (協議) (5) 蘭越町教育委員会の活動状況に関する点検・評価報告書（案）について (6) 令和7年度全国学力・学習状況調査の結果公表について (7) 旅館業法第3条第4項に規定する学校周辺の旅館業許可に係る意見聴取について
第9回 令和7年 10月30日	(報告) (1) 就学学校指定変更申請の承諾について (2) 小中学校のいじめ問題の対応について (3) 令和7年度全国学力・学習状況調査結果について (4) 令和7年度一般会計教育費補正予算について (審議) (5) 蘭越町学校運営協議会委員の任命について (協議) (6) 蘭越町立学校の教職員に係る超過在校等時間の公表について (7) 令和7年度第1回蘭越町総合教育会議について
第10回 令和7年 11月27日	(審議) (1) 蘭越町立学校職員の在宅勤務実施要領（案）について (2) 令和7年度一般会計教育費補正予算（案）について (協議) (3) 令和8年度「教育行政執行方針」骨子について (4) 令和8年度一般会計教育費予算（案）について (5) 令和7年度第1回蘭越町総合教育会議について
第11回 令和7年 12月23日	(承認) (1) 蘭越町図書館読書通帳交付要綱（案）について (協議) (2) 旅館業法第3条第4項に規定する学校周辺の旅館業許可に係る意見聴取について
第1回 令和8年 1月30日	(報告) (1) 令和7年度一般会計教育費補正予算について (審議) (2) 蘭越町立学校管理規則の一部を改正する規則（案） (3) 令和8年度全国学力・学習状況調査実施方針（案） (協議) (4) 令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査「北海道版結果報告書」における市町村別結果の公表について（北海道教育委員会教育長通知）
第2回 令和8年 2月20日	(審議) (1) 学校職員の人事の内申について (2) 令和7年度一般会計教育費補正予算（案）について (3) 令和8年度教育行政執行方針（案）について (4) 令和8年度一般会計教育費予算（案）について (5) 令和8年度歳入歳出予算のうち教育関係予算に係る教育委員会の意見について

第3回 令和8年 3月25日	(報告) (1) 蘭越町教育委員会事務局職員の任免について (2) 学校職員の人事の内申について (3) 令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果について (4) 令和7年度一般会計教育費補正予算について (承認) (5) 令和8年度要保護・準要保護児童生徒の認定について (審議) (6) 蘭越町教育委員会事務局職員の任免について〔議案〕 (7) 蘭越町学校給食費の徴収に関する条例施行規則の一部を改正する規則(案)について (8) 蘭越町体育施設条例施行規則及び蘭越町花一会図書館の設置及び管理に関する条例施行規則の一部を改正する規則(案)について (9) 学校運営協議会委員の任命について (10) 蘭越町生涯学習推進委員の選任に係る意見について (11) 蘭越町放課後子ども教室運営委員会委員の委嘱について (12) 蘭越町花一会図書館運営協議会委員(補欠)の任命について
----------------------	---

3 条例・規則等並びに各種計画等の制定及び改正

令和7年度の教育関係の条例制定、改正はありません。

規則・要綱等の制定、改正の状況は次のとおりです。

なお、各種計画等については、令和7年度の制定、改定はありません。

(1) 条例・規則・要綱等の制定、改正及び廃止

公布（施行）年月日	題 名
7.11.28	蘭越町立学校職員の在宅勤務実施要領
7.12.25	蘭越町花一会図書館読書通帳交付要綱

4 教育委員会委員の活動状況

教育委員会委員は、月1回の定例会に加え、例年、各小中学校の行事、各種表彰式へ出席するほか、各種研修会に出席するなどの活動をしています。

主な活動状況

※教育長は除く

日 時	活 動 内 容	委 員 名
4月4日	転入教職員辞令交付式	全員
5月22日	蘭越高校を地域とともに考える会総会	安田
6月23日	教育委員学校訪問（昆布小・蘭越小・蘭越中）	全員
7月17日	北海道市町村教育委員研修会（札幌市）	全員
7月18日	教育委員視察研修（北広島市）	全員
8月15日	蘭越町「はたちのつどい」	全員
11月28日	後志管内市町村教育委員会研修会（オンライン）	安田
12月2日	蘭越町総合教育会議	全員

5 各種委員会等の活動状況

蘭越町教育委員会に設置している主な審議機関、委員会等は次のとおりです。第6次蘭越町総合計画後期基本計画（令和7年度～令和11年度）や教育計画「蘭越町教育推進計画（令和7年度～令和11年度）」と整合性を図りながら、生涯学習活動、子どもの読書活動等の推進に努めました。

名 称	委員数	会 議 開催数	主 な 協 議 事 項	会議開催 年 月 日
蘭越町生涯 学習推進委 員会	15	全体会 1	・令和7年度 第1回会議（令和7年度 生涯学習の推進及び専門部会の具体的な活動について）	令和7. 4. 28
		社会教育専門 部会 1	社会教育専門部会 ・令和7年度 第1回社会教育専門部会会議（令和7年度社会教育関係報告並びに事業評価について）	令和8. 2. 24
		文化財専門部 会	文化財専門部会 ・令和7年度 第1回文化財専門部会会議（「蘭越ふるさと学習館の移転計画について」）	令和7. 6. 10

			・令和7年度 第2回文化財専門部会会議 (令和7年度社会教育関係報告並びに事業評価について、「蘭越ふるさと学習館の」移転について)	令和8.2.24
蘭越町子ども教室運営委員会	8	2	・令和7年度放課後子ども教室の運営の体制並びに蘭越町学校支援地域本部事業について ・令和7年度放課後子ども教室実施状況について	令和7.5.9 令和8.3.23
蘭越町花一会図書館運営協議会	10	1	・会長・副会長の選出 ・令和6年度図書館運営状況 ・令和7年度図書館運営	令和7.4.24
蘭越町スポーツ推進委員会	11	3	・第1回スポーツ推進委員会 ・第2回スポーツ推進委員会 ・令和7年度の総括について	令和7.4.10 令和7.10.29 令和8.3.18
蘭越町スポーツ表彰選考委員会	6	1	・令和7年度蘭越町スポーツ功労賞及びスポーツ栄誉賞の選考について	令和7.10.29 (書面開催)
蘭越町学校給食センター運営委員会	8	2	・令和6年度給食会計収支決算 ・令和7年度学校給食センター費予算 ・令和8年度給食回数について ・令和8年度給食費改定について	令和7.6.18 令和7.12.23
蘭越町特別支援連携協議会（相談支援チーム会議）	25	チーム会議 1	・幼児児童生徒の個別での支援方向検討 ・翌年度就学児童の情報共有と支援方向検討 ・翌年度中学進学生徒の情報共有と支援方向検討	令和7.8.28
蘭越町特別支援連携協議会（医療的ケア運営協議会専門部会）	8	1	・関係規定及びガイドラインの点検 ・看護師配置終了に伴う医療的ケア実施マニュアル及び緊急時対応マニュアルの改正	令和8.3.24

蘭越町外国語教育連携推進会議	2 1	ワーキンググループ会議 2	・令和7年度の成果と課題 ・令和7年度の成果と課題 ・令和8年度の取り組みについて	令和7.10.10 令和8.3.27
蘭越町学校運営協議会	1 8	全体会 3 学校部会 3	第1回 ・令和7年度学校運営協議会の推進について ・グループによる意見交換について 第2回 ・令和7年度上半期学校経営の報告について ・令和7年度上半期地域学校協働活動の実施について ・令和7年度上半期地域学校協働活動について意見交換等 第3回 ・令和7年度地域学校協働活動の実施報告について ・後志教育局教育支援課教育指導班より情報提供（熟議の活用について） ・蘭越中学校部会 ・昆布小学校部会（上半期） 〃（下半期） ・蘭越小学校部会	令和7.5.20 令和7.11.5 令和8.3.6 令和8.3.6 令和7.10.2 令和8.2.25 令和8.3.4

6 令和7年度予算の状況

令和7年度一般会計教育費の最終予算は1,559,735千円で、一般会計の17.1%を占め、教育費全体としては、対前年比18,383千円の増となりました。蘭越中学校の大規模改修工事(Ⅱ期工事)を行ったほか、電算室を構築し、町立学校における情報セキュリティの強化に努めました。また、蘭越小学校校舎照明のLED化、導入から5年が経過したGIGAスクール学習用タブレットの更新を行いました。また、安心して安全な給食を安定的に提供していくために給食センター調理業務を民間業者へ委託しました。そのほか、学校運営、社会教育やスポーツ活動等限られた財源の中、効率的な各種事業の実施に努めました。

教育費最終予算の内容(項、目別予算)

(千円)

項 及 び 目	予 算 額
1 教育総務費	231,780
(1) 教育委員会費	1,536
(2) 事務局費	153,980
(3) 奨学金	3,960
(4) スクールバス費	72,304
2 小学校費	88,312
(1) 学校管理費	81,533
(2) 教育振興費	6,779
3 中学校費	973,199
(1) 学校管理費	966,876
(2) 教育振興費	6,323
4 社会教育費	72,514
(1) 社会教育総務費	13,326
(2) 町民センターらぶちゃんホール費	16,979
(3) 花一会図書館費	37,944
(4) 放課後子ども教室費	4,265
5 保健体育費	193,930
(1) 保健体育総務費	19,451
(2) 体育施設費	57,009
(3) 学校給食センター費	117,470
合 計	1,559,735

7 行政改革(組織機構)の取組について

近年、国・地方を通じる財政の危機的状況は益々その深刻さの度合いを深め、地方公共団体の財政状況は、年々その厳しさを増してきており、この難局を乗り越えるためには財政構造そのものを変革する必要があります。

そのためには、財政と不可分の関係にある行政の仕組みと連動させて推進する必要があり、現行の制度や施策を見直し、行財政の構造をその根源から変革するため、組織体制や事務事業の見直しを進めました。

また、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき、教育委員会の事務の管理・執行状況について、毎年、点検・評価が義務付けられておりますので、令和6年度の蘭越町教育推進計画の実施状況等報告書を作成の上、議会へ提出及び公表をしております。

(1) 組織体制の見直し

令和7年度も、教職員の働き方改革に対応する部活動指導員の配置や特別な支援や配慮が必要な小学校入学前の幼児、小・中学校に在籍する児童生徒及び保護者に対して、言語面や行動面等に関する教育相談や情報提供、関係機関との連携を行う教育相談支援員を設置するとともに、昨年同様、職員を兼務発令し、業務の円滑な執行に努めました。

- ・ 教 育 次 長 ～ 学校給食センター長、業務係長 兼務
- ・ 学 務 課 主 幹 ～ 総務係長 兼務
- ・ 生涯学習課主幹 ～ 町民センター長、花一会図書館館長及び業務係長 兼務
- ・ スポーツ課主幹 ～ 総合体育館長 兼務
- ・ スポーツ課スポーツ振興係長 ～ スポーツ施設係長及び総合体育館業務係長 兼務

(2) 事務事業等の見直し

多くの施設、備品等が老朽化しており、修繕、更新に向けた費用も見込まれることから計画的な予算の措置、執行が求められます。人口減少や少子高齢化、社会情勢の変化に対応するため、限られた資源を有効活用し、教育施策の向上に努めます。

8 教育関係者の表彰等

令和7年度の主な教育関係の表彰等は次のとおりです。

(1) 蘭越町表彰

教育文化功労者表彰

白 石 勇 (社会教育委員 蘭越町)

(2) 蘭越町文化功労者表彰

文化功労者表彰

松本 佳世子 (字湯里) 音楽の普及
中兼 裕美子 (蘭越町) 日本舞踊の普及
上野 朝子 (字大谷) 俳句の普及

(3) 蘭越町スポーツ表彰

スポーツ功労者表彰

志 田 英 男 (ソフトテニス協会)
宮谷内 秀 樹 (卓球協会)
山 本 清 隆 (卓球協会)

(4) 関係団体表彰

・ 蘭越町文化団体協議会表彰

ア 文化賞

吉田 文子 (蘭越短歌会)
山岡 美智子 (木彫愛好会)
中村 孝 (蘭越町根曲がり竹細工研究会)

イ 文化奨励賞

谷内 ひさ子 (歌声サークル「はな」)

・ 蘭越町スポーツ協会スポーツ表彰

ア スポーツ功労賞

屋 敷 広 美 (ソフトボール協会)

イ スポーツ振興賞

石 見 重 徳 (卓球協会)
福 岡 直 樹 (ソフトボール協会)

ウ スポーツ奨励賞

気 田 夏 梨 (蘭越中2年) 北海道中学校柔道大会 女子70kg級 第3位

エ スポーツ努力賞

佐 藤 琉 希 (蘭越中3年)	小樽後志中体連ソフトテニス大会	男子個人	優勝
亀 井 祐羽麻 (蘭越中3年)	小樽後志中体連ソフトテニス大会	男子個人	優勝
堀 は る (蘭越小5年)	小樽後志小学校陸上記録会小5女子100mの部		優勝
蘭越中学校ソフトテニス部	小樽後志中体連ソフトテニス大会	男子団体	優勝
蘭越中学校バレーボール部	小樽後志中体連バレーボール大会	女子団体	優勝

オ スポーツ特別賞

佐々木 里和子（蘭越中3年）全国中学校スキー大会

女子 SL 4位

GSL 7位

JOC ジュニアオリンピックカップ 2025 全日本ジュニアスキー選手権

女子 GSL 7位

第2章 令和7年度教育推進計画 に基づく評価（内部評価）

第2章のポイント

令和7年度から令和11年度までを計画期間とする蘭越町教育推進計画に基づき、令和7年度の教育委員会の活動の点検・評価を行ったものです。

具体的には、「教育推進計画」に示した27項目の施策について、目標指標の実施状況や、令和7年度事業の取組概要・成果や課題・今後の方向性を整理しています。

施策項目 1 確かな学力の育成

目 標

学校と家庭が連携を図りながら、子どもの学ぶ意欲を育むとともに、望ましい学習習慣を身に付けさせ、確かな学力を育む。

目標指標

指 標	指 標 の 概 要	現状(R 5)	R 6	R 7	目標(R11)
児童・生徒の授業の理解	全国学力・学習状況調査において、「国語、算数・数学の授業の内容は分かる」と回答した町内児童・生徒の割合（小学6年生、中学3年生）	小国 100.0% 小算 81.0% 中国 91.7% 中数 70.8% 中英 58.3%	小国 96.9% 小算 81.3% 中国 84.8% 中数 60.7% 中英 質問項目なし	小国 79.5% 小算 64.1% 中国 83.9% 中数 67.7% 中英 質問項目なし	小国、算 90% 中国、数 80% 中英 65%以上をめざす
基礎・基本の定着の状況	全国学力・学習状況調査において、全国平均正答率を100とした場合の町内学校のすべての教科の平均正答率	小国 104 小算 117 中国 95 中数 84	小国 96 小算 98 中国 77 中数 65	小国 103 小算 103 中国 96 中数 87	すべての教科で100以上をめざす
家庭学習の取組状況	全国学力・学習状況調査において、「学校の授業時間以外に、普段（月～金）、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか」という設問に対して、「1時間以上勉強している」と回答した町内児童・生徒の割合	小 47.6% 中 54.2%	小 43.8% 中 30.3%	小 43.5% 中 42.0%	「1時間以上勉強する」と回答する町内児童・生徒の60%以上をめざす
幼保小中の連携	確実な接続を目指す相互視察（授業参観等）や乗り入れ授業の実施	幼保小視察 入学説明会 体験入学 中→小視察 中→小乗り入れ授業	幼保小視察 入学説明会 体験入学 中→小視察 中→小乗り入れ授業	幼保小視察 入学説明会 体験入学 中→小視察 中→小乗り入れ授業	視察や乗り入れ事業100%をめざす
指導技術の向上	教職員の教科指導に係る専門的な研修への参加率	95.6%	97.7%	92.7%	一人一研修をめざす

点検・評価の課題と今後の方向

（1）確かな学力の育成を図る教育課程の編成と実施

① 令和7年度の取組概要	② 令和7年度の取組の成果や課題	③ 今後の方向性
全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業改善	・全国学力・学習状況調査結果の分析内容を学校内で共有し、教育課程の編成、実施、評価、改善を図ることで授業改善に取り組んだ。	・学力向上に向けた授業改善を継続し、授業力に重点を置いた職員の資質向上を図る。

(2) 基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させるとともに、思考力・判断力・表現力の育成を図る学習活動の充実

① 令和7年度取組概要	② 令和7年度取組の成果や課題	③ 今後の方向性
放課後や長期休業期間を利用した補充的な学習、児童生徒の主体的な学習を支援する体制の充実	・休み時間や放課後等を利用し、必要に応じて指導を行ってきた。(蘭越小) ・放課後に放課後子ども教室と連携し、児童の実態に合わせた補充的な学習を行った。(昆布小) ・長期休業期間中に夏2回、冬2回の学習会を実施した。(蘭越小・昆布小) ・定期テスト前放課後学習会や長期休業中学習会に加え、随時放課後学習を行った。(中学校)	・限られた時間の中で、できる範囲での対応を継続して行っていく。(蘭越小) ・プリントやA Iドリル等を活用して、基礎事項の定着を図る。(昆布小) ・個に応じた学習支援を継続する。(中学校)

(3) 学年の発達段階に応じた家庭での学習習慣の定着を図り、主体的に学習に取り組む等、学びに向かう力の涵養

① 令和7年度取組概要	② 令和7年度取組の成果や課題	③ 今後の方向性
家庭における学習習慣の確立	・「家庭学習の手引き」を全家庭に配付し、基本の学習スタイルの共通理解を図った。また、保護者会等の機会を通じて、学校と家庭との緊密な連携に努めたものの、毎日の学習習慣がしっかりと定着するまでには、まだ個人差がある。(蘭越小) ・家庭学習の手引きを配付し、家庭の協力を求めた。成果を廊下に掲示し、内容交流や良い例の紹介をして、内容の向上を図った。(昆布小) ・各教科の家庭学習ノートを毎日提出するよう指導し、各教科担当が添削してコメントを記入し、継続して取り組めるよう努めた。また、スマイルネクスト(学習用タブレット端末学習ドリル)の活用を促した。(中学校)	・すべての子どもたちが自主的に取り組めるよう、家庭と連携して進めていく。(蘭越小) ・今後も内容交流や良い例の紹介など、習慣化につながる手立てを講じていく。(昆布小) ・学習ノートとスマイルネクスト(学習用タブレット端末学習ドリル)の自主的な取り組みを進める。(中学校)

(4) 幼保小中の連携を図るとともに、確実な接続を実現する指導体制の確立

① 令和7年度取組概要	② 令和7年度取組の成果や課題	③ 今後の方向性
スムーズな接続を実現する連携・指導体制の確立	・幼保小および小中の教員間で引き継ぎ会を行い、児童の体験入学や保護者説明会を実施した。(蘭越小) ・入学前の「はばたきシート」の引き継ぎ、中学校からの乗り入れ授業(中学校の生活事前学習等)を継続して実施している。(昆布小) ・教育課程交流会や町教研において、学習規律の共有や、小学校への乗り入れ授業、授業参観を積極的に行った。(中学校)	・スタートカリキュラムの効果を確認しながら、さらにスムーズな接続ができる指導体制づくりを進めていく。(蘭越小) ・今後も継続するとともに、学校種間を超えて授業を見合う機会を増やし、よりスムーズな接続になるよう図る。(昆布小) ・町教研での連携に加えて行事や授業の参観・交流を積極的に図る。(中学校)

(5) 管理職や先輩教員からの学びや同僚間の学び合いと校内研修の推進

① 令和7年度の取組概要	② 令和7年度の取組の成果や課題	③ 今後の方向性
外部での研修や外部講師を招く研修による教科研究の充実	- 外部講師の活用により、教員の専門的な指導力の向上と教科研究の深化を図ることができた。研修で得た学びや理論を、実際の授業や日常の教育活動に定着・還元させていく必要がある。(蘭越小) - 後志教育研修センターの研修講座へ積極的に参加し、校内で成果の共有を図った。また、町教研主催で広島工業大学安藤明伸氏を迎え、『個別最適な学びと協働的な学びの一体的な推進における一人一台端末の活用』に参加し、研修を深めた。(昆布小) - 研修の受講奨励に加えて他校への授業参観を設定し、キャリアステージに応じた研修を促した。(中学校)	- 外部講師を招いた研修を継続し、教科研究をさらに発展させる。あわせて、研修の成果を学校全体で共有し、実践につなげるための校内体制を強化する。(蘭越小) - 働き方改革を進めつつ、外部研修へ積極的に参加するとともに、外部講師の積極的な活用を図る。(昆布小) - 後志研修センター所員として派遣する職員を中心に研修内容を職員全体に還流して校内研修を深める。(中学校)

施策項目 2 特別支援教育の充実

目 標

外部講師の協力も得ながらより一層教育の質を高めていきつつ、幼保の段階の児童からアプローチを始めて、特別支援の充実を図っていく。

目標指標

指 標	指 標 の 概 要	現状(R 5)	R 6	R 7	目標(R 11)
「個別の教育支援計画」の策定状況	通常学級に在籍する特別な支援を必要とする児童・生徒の「個別の教育支援計画（幼保：はばたきシート）」の入学・進学先等における引き継ぎ、活用している割合	幼・保→ 小 100% 小→中 100% 中→高 100%	幼・保→ 小 100% 小→中 100% 中→高 100%	幼・保→ 小 100% 小→中 100% 中→高 100%	対象児童・生徒について 100%活用を維持し、高校での活用 100%をめざす。
特別支援教育に関する研修の状況	各校の特別支援教育に関する校内研修の実施状況	各小学校、校内研修に取り上げている。 中学校、年間計画の中に位置づけ、実施している。（R 5 年度は指導主事要請訪問により、特別支援に関わる研修を実施）	各小学校、校内研修で取り上げている。 中学校、年間計画の中に位置づけて実践している。（ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業について研修を実施）	各小学校、校内研修で取り上げている。 中学校、年間計画の中に位置づけて実践している。（特別支援教育の視点を生かした授業について研修を実施）	各校 1 回以上の研修開催継続実施

点検・評価の課題と今後の方向

（１）一貫した支援をめざした特別支援教育の推進

① 令和 7 年度の取組概要	② 令和 7 年度の取組の成果や課題	③ 今後の方向性
通常学級に在籍する特別な支援を必要とする児童・生徒における「個別の教育支援計画」の策定・活用	・通常学級担任、特別支援コーディネーター、通級担当が支援計画を共有し、活用することで特別な支援を必要とする児童に寄り添うことができた。（蘭越小） ・通常学級担任、特別支援学級担任、通級担当が連携し、「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を策定し、指導に活用している。（昆布小） ・「実態把握票」を作成し、特別な支援を要する生徒を把握して、「個別の教育支援計画」を策定して活用した。（中学校）	・「子ども支援委員会」や「情報交流会」を開催し、子どもの今の姿に合わせて、いつでもぴったりの支援ができる仕組みを進めていく。（蘭越小） ・今後も校内サポート会議で情報を共有しながら、実態に応じた支援ができるよう推進する。（昆布小） ・「実態把握票」の作成を継続し、合理的配慮や支援計画につなげ、学校全体で共通した支援を行う。（中学校）

(2) 幼稚園、小・中学校、高等学校などにおける特別支援教育の充実

① 令和7年度の実施概要	② 令和7年度の実施の成果や課題	③ 今後の方向性
蘭越町特別支援連携協議会の専門的な相談支援の充実（就学支援シートの取組含む）	- 関係機関と連携を図り、相談支援を実施した。子どもたちにより良い教育を届けるためには、関係機関とのつながりをさらに強くしていく必要がある。（蘭越小） - 協議会の活動内容を踏まえ、ケース会議や相談支援等を実施した。（昆布小） - 協議会の活動内容を踏まえ、校内の特別支援委員会を充実させ、個々に応じた支援につなげられるようにした。（中学校）	- さらに連携を強化し、特別支援教育について充実を図っていく。（蘭越小） - 専門機関との連携を強化し、特別支援教育の充実を図る。（昆布小） - 生徒や保護者のニーズを踏まえ、協議会や校内生活支援委員会の討議を経ながら適宜関係機関と連携していく。（中学校）

(3) 特別支援教育に関する研修の充実

① 令和7年度の実施概要	② 令和7年度の実施の成果や課題	③ 今後の方向性
特性に関する研修の充実	- 幼小、小中の繋がりを深めながら、研修を充実させることができた。子どもの特性に合わせた関わりを、さらに早い段階から進める必要がある。（蘭越小） - 校内研修の理論研修を行う中で、個に応じた指導の実践について情報交換などを実施した。（昆布小） - 生徒支援委員会を月に1度開催し、特別支援学級生徒をはじめ通常学級在籍の生徒において支援が必要な生徒の状況について交流し、支援体制について協議・研修した。（中学校）	- 幼小期の教育相談の実施により早期の対応を図っていく。（蘭越小） - 特別支援コーディネーターによる研修を行い、発達特性に関する知識を高めるとともに、支援の充実を図る。（昆布小） - 今後も個に応じた支援やユニバーサルデザインを踏まえた教育活動を組織的に実践できるよう研修を行う。（中学校）

施策項目 3 国際理解教育の充実

目 標

国際社会の一員としての自覚を持ち、自国はもとより、諸外国の歴史や文化、伝統等について理解を深め、尊重し、様々な価値観を持つ人々と共に協調して生きていく態度や、外国語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度や能力を育成する

目標指標

指 標	指 標 の 概 要	現状(R 5)	R 6	R 7	目標(R 11)
外国語活動の実施状況	A L T が支援した外国語・外国語活動の授業時数（小中学校）	授業時 100%	授業時 100%	授業時 100%	授業時数 100% 継続をめざす
外国語研修の実施状況	小学校の教員を対象とした外国語研修の実施	（蘭越小） 1 回実施 （昆布小） 未実施	（蘭越小） 未実施 （昆布小） 未実施	（蘭越小） 未実施 （昆布小） 未実施	年 間 1 回 の 実 施 ・ 継 続 を め ざ す
英検 3 級合格者の状況	中学校卒業段階で英検 3 級以上を取得又は英検 3 級の英語力を有すると思われる生徒の割合	18.2%	19.4%	29.4%	30%

点検・評価の課題と今後の方向

（1）外国語教育の充実

① 令和 7 年度の取組概要	② 令和 7 年度の取組の成果や課題	③ 今後の方向性
A L T を活用した外国語指導（小学校）	・ 1 ～ 4 年生までは外国語活動、5 ・ 6 年生は外国語において、外国語に触れる活動を行った。（蘭越小） ・ 低学年では年間 1 0 時間の外国語活動を実施した。体を動かしゲームをしながら英語に触れる活動を行った。（昆布小）	・ 授業における A L T の効果的な活用を踏まえた実践研修を行っていく。（蘭越小） ・ 今後も全ての学年で外国語を学び、外国語の一層の定着を図る。（昆布小）
A L T を活用した外国語指導（中学校）	・ 授業において、スモールトークやショートスピーチ、パフォーマンステスト等で活用することができた。（中学校）	・ 「English トライアル」など活性化させるなど計画的な活用を図る。（中学校）
外国語指導を行う教員の資質・能力の向上（小学校）	・ 日々実践の上、A L T と授業について打ち合わせを行うなど、能力の向上がうかがえた。（蘭越小） ・ 外国語活動支援員による授業補助や助言により、授業の充実を図ることができた。（昆布小）	・ ミニ研修等、全体で研修を行う機会を作る。（蘭越小） ・ 同僚の授業を見て学び合う機会の充実や個々の英語力の向上に努める。（昆布小）
外国語指導を行う教員の資質・能力の向上（中学校）	・ 後志研修センターの研修講座をはじめ各種研修に参加して指導力の向上に努めた。また、A L T との連携や I C T 機器の効果的な活用を図り生徒の興味関心を高める授業づくりに努めた。（中学校）	・ 英語科教員を後志研修センターに派遣し、指導力の向上に向けて研修を行う。（中学校）

(2) 国際理解・異文化理解協力の推進

① 令和7年度の取組概要	② 令和7年度の取組の成果や課題	③ 今後の方向性
国際交流・異文化交流の実施 (A L Tの活用含む)	・3・4年生のみならず、1・2年生においても外国語活動を行い、外国語に触れる活動を行った。授業はもちろんのこと、授業以外でもA L Tと交流している場面を見かけることが多くなってきた。(蘭越小) ・外国語活動・外国語の授業だけでなく、休み時間等においてもA L Tとの交流機会を設定し、英語に触れる機会を充実させている。(昆布小) ・A L Tが季節毎のイベントについて日本とカナダの特色を掲示するコーナーを作成するなど異文化について触れる機会を設けた。(中学校)	・外国語活動を充実させることで、自然に交流できる機会を増やしていく。(蘭越小) ・A L Tや地域人材を活用し、国際交流や異文化交流機会を増やす。(昆布小) ・フィリピン出身のA L Tに代わったことから、東南アジアの文化に触れる機会を設ける。(中学校)
国際理解・異文化理解の活動	・外国語や他の教科において日本と比較しながら理解を深めた。(蘭越小) ・外国語の学習の中で、日本と比較しながら理解を深めてきた。(昆布小) ・A L TやJ I C A (独立行政法人 国際協力機構)での活動経験がある教員や、海外にルーツを持つ生徒との交流を深め、授業、特別活動、道徳を通じ、多様な価値観を認め合う共生の態度を養うよう努めた。(中学校)	・今後も活動を推進していく。(蘭越小) ・外国語以外の授業でA L Tを活用するなど、A L Tの活動の場면을工夫する。(昆布小) ・他国の文化や価値観の違いを学び、認め合い、尊重する心を育む教育活動の展開に努める。(中学校)

施策項目 4 情報教育の充実

目 標

子どもを巻き込んだトラブルに対する正しい知識の普及を図っていきながら、環境整備を進めるとともに教職員の指導力を高める研修も行い、すべての児童生徒の可能性を引き出せるよう、教育の質の向上を図る。

目標指標

指 標	指 標 の 概 要	現状(R 5)	R 6	R 7	目標(R 11)
コンピューターを活用した指導の状況	学校における教育情報化の実態等調査における I C Tを活用して指導できる教員の割合	78.8%	81.3%	82.1%	100%をめざす
情報教育に関する指導の状況	情報教育やプログラミング教育に関する研修の充実	小、中 完全実施	小、中 完全実施	小、中 完全実施	小、中 完全実施の継続

点検・評価の課題と今後の方向

(1) 情報モラルの向上を図る指導内容の充実

① 令和7年度の取組概要	② 令和7年度の取組の成果や課題	③ 今後の方向性
情報モラル向上のための児童・生徒向け指導資料の作成・配布、情報教育に関する教員研修	- 外部講師による「情報モラル教室」を実施し、児童向けの啓発資料を配付した。(蘭越小) - 情報モラルに関する資料を配付し、児童への指導と保護者への啓発を行った。(昆布小) - 保護者向けに教育委員会等から提供される資料を配付した。授業では技術において指導した。また、情報教育に関する教員研修を行った。(中学校)	- これからも情報教育の充実を図る。(蘭越小) - 情報モラル教室や教職員の研修を実施する。(昆布小) - 生徒の実態を把握し、実態に合わせて必要な資料を配付・指導するとともに、保護者にも重ねて発信する。(中学校)

(2) 情報教育に関する指導方法の工夫・改善

① 令和7年度の取組概要	② 令和7年度の取組の成果や課題	③ 今後の方向性
教育関係機関を結ぶネットワークの活用、情報教育に関する職員研修	- 校内研修、町教研において指導方法の研修を行った。(蘭越小) - Chromebook に移行したことによる基本的な活用に関する研修を行った。(昆布小) - 校務支援システムを活用した情報共有に加えて、道教委等から提供される研修 link ナビを元にした研修を促した。(中学校)	- これからも研修を積み重ね、さらなる充実を図る。(蘭越小) - 教職員研修を充実させ、個別最適な学びの充実を図る。(昆布小) - I C T環境が整備されたので、より安全に、より効果的に活用できるよう研修受講を促す。(中学校)

(3) 情報教育設備の整備・充実

① 令和7年度の取組概要	② 令和7年度の取組の成果や課題	③ 今後の方向性
端末や環境に係るメンテナンスについてのマニュアル化や専門業者への業務委託推進	・令和2年度にGIGAスクール構想に伴う1人1台のタブレット端末の導入及び校内ネットワークを構築済み。 ・タブレット使用に係るメンテナンスに時間を要し、授業に支障をきたすことがあった。	・アクシデント発生時の対応を迅速に行い、授業への影響を軽減するよう努める。
機器の更新、電子黒板の導入等の環境整備	・タブレット端末の更新により、快適な動作環境を確保し、学習環境の充実化を図った。 ・電子黒板の配置を進めたことにより視覚的な理解が深まり、効果的な授業が充実してきた。	・引き続き電子黒板の配置を進める。 ・電子黒板の活用法について校内研修により理解を深め、授業の充実化を図る。

施策項目 5 道徳教育の充実

目 標

基本的な生活習慣の確立や最低限の規範意識だけでなく、自分への信頼感や自信等の自尊感情や他者への思いやり等の道徳性を養うことと併せ、法やルール of 意義やそれらを尊重すること等の意味を理解し、主体的に判断して、適切に行動できる道徳性を養う。

目標指標

指 標	指 標 の 概 要	現状(R 5)	R 6	R 7	目標(R 11)
規範意識や基本的な倫理観等の状況	全国学力・学習状況調査において、「人が困っているときは、進んで助けていますか」という質問事項について、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した町内児童生徒の割合	小 100% 中 75.0%	小 96.9% 中 93.9%	小 94.9% 中 83.9%	すべての児童生徒が良好な回答をすることをめざす
自尊感情の状況	全国学力・学習状況調査において、「自分にはよいところがあると思いますか」という質問事項について、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した町内児童生徒の割合	小 95.2% 中 66.7%	小 93.8% 中 87.8%	小 77.0% 中 90.3%	すべての児童生徒が良好な回答をすることをめざす
向上心の状況	全国学力・学習状況調査において、「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか」という質問事項について、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した町内児童生徒の割合	質問項目なし	質問項目なし	質問項目なし	すべての児童生徒が良好な回答をすることをめざす
生命の尊重や他者への思いやりの状況	全国学力・学習状況調査において、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という質問事項について、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した町内児童生徒の割合	小 100% 中 91.7%	小 100.0% 中 100.0%	小 89.8% 中 96.8%	すべての児童生徒が良好な回答をすることをめざす
社会参画への意識の状況	全国学力・学習状況調査において、「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」という質問事項について、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した町内児童生徒の割合	小 81.0% 中 54.2%	小 87.5% 中 72.7%	小 79.5% 中 67.8%	すべての児童生徒が良好な回答をすることをめざす

点検・評価の課題と今後の方向

(1) 家庭や地域と連携を図り、多様な教育資源を活用した子どもの発達段階に応じた道徳教育の充実

① 令和7年度取組概要	② 令和7年度取組の成果や課題	③ 今後の方向性
地域の人材活用や体験活動を取り入れた道徳教育の実践	- 外部講師を招いて人権教室を実施するなど道徳教育を実践した。(蘭越小) - スキージャンプの池田龍生選手を招聘し、夢を叶える心の成長を促したり、法務局と連携した人権教室を効果的に取り入れ、効果的に学習を行うことができた。(昆布小) - 交通安全教室や防災学習、食育等で地域人材を活用した道徳教育を実践した。(中学校)	- 学年により外部講師の活用に偏りが見られるので、学年等考慮して活用する。(蘭越小) - 今後も継続していく。(昆布小) - さらなる人材発掘のため、学校運営協議会をはじめ地域との連携を図る。(中学校)
「道徳の時間」(「特別な教科である道徳(道徳科)」)の充実	- 道徳教育推進教諭を中心に授業改善に取り組むことができた。(蘭越小) - 校内で道徳教育推進教師を選定し、その教員を中心に道徳教育の研修会を設定させ、充実を図った。(昆布小) - I C T環境が整い、他者参照や全体交流の仕方について、学年団で連携してお互いに指導方法を交流しながら研修を深めるよう取り組んだ。(中学校)	- これからも授業づくりについて研修を深めていく必要がある。(蘭越小) - 他校の状況や後志教育研修センター等との連携によって一層の充実を図りたい。(昆布小) - 導入の工夫や中心発問の精選、I C Tを活用した交流の工夫など指導力の向上を目指す。(中学校)

(2) 道徳的価値の自覚を深めさせる指導の充実

① 令和7年度取組概要	② 令和7年度取組の成果や課題	③ 今後の方向性
「総合的な学習の時間」等におけるボランティア活動、自然体験活動、高齢者や障がい者、外国人との交流の実施	- 自然体験活動では、遠足、川の学習、宿泊研修における体験活動、米作りなど様々な活動を展開できた。また、特別養護老人ホームとの交流も実施した。(蘭越小) - 地域の清掃活動をボランティア活動として行った。地域の人材を活用した川や山での自然体験活動を実施した。(昆布小) 「職場体験」を2年生での実施に変更するため、今年度は2・3年生で実施した。「職場体験」を通して、勤労の意義や社会貢献について考える機会としている。(中学校)	- 実践後の反省をもとに改善を図り、継続していく。(蘭越小) - コミュニティ・スクール等と連携し、自然体験や交流活動などを積極的に実施していく。(昆布小) 「職場体験」を2年生での実施とし、体験活動からさらに探求を深める学習により道徳的価値の高まりを目指す。(中学校)

施策項目 6 ふるさと教育の充実

目 標

自分たちの住む地域の豊かな自然環境や歴史、伝統、文化及び産業等に理解を深めるとともに、アイヌの人たちの歴史や文化、北方領土について正しい知識を身に付ける。

目標指標

指 標	指 標 の 概 要	現状(R 5)	R 6	R 7	目標(R 11)
ふるさとへの関心の状況	全国学力・学習状況調査において、「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」という質問に対して、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した町内児童、生徒の割合	小 81.0% 中 54.2%	小 87.5% 中 72.7%	小 79.5% 中 67.8%	80%以上をめざす
アイヌの人たちの歴史・文化に関する教育の実施状況	アイヌの人たちの歴史・文化に関する学習において、資料等を活用した調べ学習や体験を通じた学習の実施	(小学校) 調べ学習は行っているが、体験を通じた学習は不十分(情報機器を活用し疑似体験できるよう取り組んだ。) (中学校) 花一会図書館と協力して、資料の充実や調べ方を工夫して、調べ学習の充実を図った。また、調査内容を深めるためにウポポイの見学を実施した。	(小学校) 調べ学習は行っているが、体験を通じた学習は不十分(情報機器を活用し疑似体験できるよう取り組んだ。) (中学校) 花一会の協力を受け資料を充実させて調べ学習の工夫と充実を図った。また、調査内容を深めるためにウポポイの見学を実施した。	(小学校) 調べ学習は行っているが、体験を通じた学習は不十分(情報機器を活用し疑似体験できるよう取り組んだ。) (中学校) 花一会の協力を受け資料を充実させて調べ学習の工夫と充実を図った。また、調査内容を深めるためにウポポイの見学を実施した。	施設や人材等を活用した体験を通じた学習の完全実施、100%をめざす(継続)
北方領土学習の実施状況	北方領土に関する学習において、資料等を活用した調べ学習や体験を通じた学習の実施	(蘭越小) 情報機器を駆使して調べ学習を実施し、知識にとどまらない学びになるよう工夫している。 (昆布小) 調べ学習は行っているが、体験を通じた学習は不十分。	(蘭越小) 資料を活用した学習を展開し、情報機器も活用した調べ学習を行った。 (昆布小) 調べ学習は行っているが、体験を通じた学習は不十分。	(蘭越小) 資料を活用した学習を展開し、情報機器も活用した調べ学習を行った。 (昆布小) 5年・6年の社会科で、北方領土が固有の領土であることやその位置、文化、歴史について、教科書を中心として概要	資料等を活用した調べ学習の完全実施、100%をめざす(継続)

		(中学校) 社会科の授業で、資料を用いた学習に取り組んだが、調べ学習をすることはできなかった。	(中学校) 社会科の授業において資料を用いた学習を行ったが、調べ学習には至らなかった。	の理解に努めている。 (中学校) 社会科の授業において資料を用いた学習を行ったが、調べ学習には至らなかった。	
--	--	--	--	--	--

点検・評価の課題と今後の方向

(1) ふるさとの自然や歴史、伝統、文化、産業等に関する教育の充実

① 令和7年度取組概要	② 令和7年度取組の成果や課題	③ 今後の方向性
学校における地域の施設や人材、自然環境等の教育資源を活用した学習活動	・遠足、川の学習、米作り、まち探検や地域調べにおけるインタビューなど、各学年で多様な活動を展開できた。(蘭越小) ・総合的な学習の時間や生活科に、地域の人材や自然環境を生かした学習活動を取り入れることができた。(昆布小) ・2・3年生の職場体験学習において町内および近隣町村で2日間実施し、職業観の理解を深めた。(中学校) ・花一会図書館と連携して、調べ方や学び方など調べ学習の基礎を身に付けることができた。(中学校) ・旅行的行事で一貫して地域学習を取り入れ改めて蘭越町の良さを確認させることができた。(中学校)	・これからも改善を図りながら継続していく。(蘭越小) ・総合的な学習の年間計画をもとに田植えや稲刈りなどの体験活動を実施する。体験活動を増やし充実させたい。(昆布小) ・職場体験学習を2年生での実施に切り替え、3年生で地域の魅力を探求する学習を取り入れる。(中学校) ・花一会図書館とはじめとした地域の人的物的資源の活用を図る。(中学校) ・3年間を通じた地域学習を充実させて旅行的行事の活性化を図る。(中学校)
小学校中学年社会科の町内めぐり体験等の充実	・地域協働推進委員の協力の下、旧名駒小のふるさと学習館のほか、各工場や下水処理施設、ゴミ処理施設、消防施設等の見学など充実した学習であった。(蘭越小) ・蘭越小学校との合同学習を7月・9月(4年社会科見学)、11月(3年ふるさと学習館)を実施し、体験学習を進めることができた。(昆布小)	・これからも改善を図りながら継続していく。(蘭越小) ・次年度も2校での合同学習を計画的に推進して内容の充実を図る。(昆布小)

(2) アイヌの人たちの歴史・文化などに関する教育の充実

① 令和7年度取組概要	② 令和7年度取組の成果や課題	③ 今後の方向性
アイヌの人たちの歴史や文化などに関する学習活動、副読本の活用	・積極的に副読本を活用し学ぶとともに、情報機器を活用し疑似体験できるよう学んだ。(蘭越小) ・4年生、5年生、6年生において学習を実施している。北海道の先住民族としての理解を深められるように指導している。(昆布小) ・花一会図書館の協力のもとアイヌについての調べ学習を行い、ウポポイ見学を通してアイヌの歴史や文化について考えさせることができた。(中学校)	・これからも改善を図りながら継続していく。(蘭越小) ・今後も継続し、実践の深化を図る。(昆布小) ・ウポポイ見学の継続や、花一会とICTの融合などアイヌ学習の充実を図る。(中学校)

(3) 北方領土に関する教育の充実

① 令和7年度の取組概要	② 令和7年度の取組の成果や課題	③ 今後の方向性
北方領土に関しての、資料を活用した調べ学習の取組	・資料をもとに島名、位置、歴史等について学び、成果をまとめるなど、児童の興味・関心に応じて調べ学習に取り組むことができた。(蘭越小) ・社会科の授業で、歴史的な経緯を学ばせるとともに、主体的に学習に取り組ませるよう努めている。(昆布小) ・社会科において、資料を活用した学習を行った。(中学校)	・これからも改善を図りながら継続していく。(蘭越小) ・効果的な資料の活用を進める等、学習内容の定着を図っていく。(昆布小) ・調べ学習を含めた学習を展開する。(中学校)

施策項目 7 読書活動の推進

目 標

すべての子どもが、人生をより深く生きる力を身に付けられるよう、自主的な読書活動のための環境整備を図る。

目標指標

点検・評価の課題と今後の方向

指 標	指 標 の 概 要	現状(R 5)	R 6	R 7	目標(R 11)
幼児や児童生徒 1 人当たりの年間図書貸出冊数	学校図書における、町内児童・生徒 1 人当たりの図書貸出冊数	小 14.0 冊 中 5.1 冊	小 11.5 冊 中 0.0 冊 (R 6 中学校図書室閉鎖)	小 12.4 冊 中 2.2 冊	小 25 冊以上 中 5 冊以上
読書が好きな児童生徒の割合	全国学力・学習状況調査において、読書が好きである、という傾向が見られる小学 6 年生、中学 3 年生の割合	小 71.4% 中 83.3%	質問項目なし	小 71.8% 中 58.0%	80%以上
家庭での読書の状況	全国学力・学習状況調査において 1 日当たりの読書時間が 10 分以上と回答した小学 6 年生、中学 3 年生の割合	小 66.7% 中 70.8%	質問項目なし	小 61.6% 中 42.0%	80%以上

(1) 学校図書館の利用促進

① 令和 7 年度の取組の概要	② 令和 7 年度の取組の成果や課題	③ 今後の方向性
学校図書館の利用促進と花一会図書館との連携	・学校と花一会図書館との連携がしっかりしているので、学校図書館の管理運営や授業での図書利用が充実していた。(蘭越小) ・花一会図書館の巡回指導により、学校図書館を有効に利用した学習活動を行うことができた。また、各教科での図書活動や利用の推進を行うこともできた。(昆布小) ・各教科の年間指導計画に花一会図書館との連携を計画した。生徒がつくる学級文庫や広がる本だな事業、国語における P O P 作成、総合的な学習の時間におけるアイヌ学習への資料提供など、学校図書の利用促進に花一会図書館が大きな役割を果たした。(中学校)	・これからも連携を密にして、利用促進を図る。(蘭越小) ・図書館活用年間計画をもとにした利用促進を図り、学校図書館を活かした学習活動を一層推進する。(昆布小) ・年間計画に沿って、さらなる花一会図書館との連携や、「読書思い出帳」の利活用を図る。(中学校)

(2) 学校図書館の環境整備

① 令和7年度の取組の概要	② 令和7年度の取組の成果や課題	③ 今後の方向性
学校図書館の充実整備	・花一会図書館の協力により、管理運営がなされた。(蘭越小) ・花一会図書館の協力により、図書の整備を計画的に行うことができた。(昆布小) ・新しく学校図書館と読書コーナーが整備され、花一会図書館と連携して、生徒の興味関心に即した図書の整備を進めることができた。(中学校)	・今後も継続していく。(蘭越小・昆布小) ・学校図書館と読書コーナーの有効活用を図り読書意識の向上に努める。(中学校)

(3) 家庭での読書環境づくりの啓発

① 令和7年度の取組の概要	② 令和7年度の取組の成果や課題	③ 今後の方向性
家庭・地域・学校等の連携推進	・地域の団体による読み聞かせのほか、朝の活動で読書に学校全体で取り組み、読書習慣の定着を図ってきた。(蘭越小) ・読書週間の定着に向けて家庭への啓発を進めてきた。(昆布小) ・花一会図書館からの新刊案内の配付や、定期的な学級文庫の入替、長期休業中の図書の貸し出しなどを行い読書習慣の啓発活動を行った。(中学校)	・保護者に向けて家での読書について啓発していく必要がある。(蘭越小) ・今後も継続していく。(昆布小) ・情報機器の利用と読書習慣の融合を目指す。(中学校)

施策項目 8 生徒指導・教育相談の充実

目 標

家庭や地域との連携を一層強化し、共感的な理解に基づく児童生徒理解や、評価を工夫する等、自己指導能力を育てる生徒指導の充実に努める。

目標指標

指 標	指 標 の 概 要	現状(R 5)	R 6	R 7	目標(R 11)
いじめの解消の状況	文部科学省調査の「いじめの認知件数」の内、「解消しているもの」の割合	小 100% 中 100%	小 99% 中 100%	小 76% 中 100%	100%を継続する
いじめに対する意識	全国学力・学習状況調査結果において、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思うか」という問いに対して「当てはまる」と回答した町内小学校6年生、中学校3年生の児童生徒の割合	小 85.7% 中 83.3%	小 84.4% 中 81.8%	小 84.6% 中 87.1%	100%をめざす
ネットトラブルの未然防止の取組状況	SNS や携帯等の利用に関する「家庭内でのルール」等の整備状況	未実施(情報通信機器活用に関する注意喚起は実施)	未実施(情報通信機器活用に関する注意喚起は実施)	(小学校) 未実施(情報通信機器活用に関する注意喚起は実施) (中学校) 警察生活安全係を講師に、情報モラル教室を実施(1年生) 各種啓発資料を配付して指導	完全実施

点検・評価の課題と今後の方向

(1) 学校における相談体制の充実や家庭・地域社会との連携を通した生徒指導の充実

① 令和7年度の取組概要	② 令和7年度の取組の成果や課題	③ 今後の方向性
スクールガードリーダーの巡回(小学校)	- 定期的巡回していただき、大きな事故もなかった。(蘭越小) - スクールガードリーダーが定期的に巡回を行った。効果的かどうかの検証を行う必要がある。(昆布小)	- これからも継続して子どもたちが安全に登下校できる取組を行う。(蘭越小) - スクールガードリーダーと連携し、効果的な安全指導を行うことを一層重視していく。(昆布小)
スクールカウンセラー配置(中学校)	毎月スクールカウンセラーが来校することに加えて、毎週オンラインによる相談ができる環境を整えた。また、「いのちの授業」の講師として全学年授業を行った。	生徒と親しむ機会を増やし、生徒や家庭への周知方法を工夫する。

(2) いじめや不登校、暴力行為等児童生徒の問題行動の未然防止・早期対応

① 令和7年度の取組概要	② 令和7年度の取組の成果や課題	③ 今後の方向性
いじめアンケートの実施等	・いじめアンケートは3回実施し、アンケートをもとにいじめの早期発見に努めた。(蘭越小) ・昨年度から1回増やし、年3回のアンケートを実施した。いじめの未然防止や早期発見、解決につなげることができた。(昆布小) ・いじめの定義とアンケートの意義を参観日の全体懇談で保護者全体に周知した。また、いじめアンケート結果を学校だよりで周知した。(中学校)	・これからもいじめの未然防止、早期発見に努める。(蘭越小) ・今後も継続し、未然防止に努める。(昆布小) ・いじめの根絶に向けて、温かい学校の雰囲気づくりを学校全体で図る。(中学校)
教職員全員による教育相談等の取組	・アンケートをもとに教育相談を行い、内容を共有した。(蘭越小) ・アンケートをもとに教育相談を実施し、教職員間の情報共有に努め、未然防止や早期発見に努めた。(昆布小) ・全校生徒対象でどの先生にも相談できる教育相談を年に2回実施。また、ハイパーQ Uを2回行い、生徒の実態把握に努めた。(中学校)	・これからも未然防止、早期発見に努める。(蘭越小) ・全職員で相談内容を共有し、問題行動の未然防止に努めていく。(昆布小) ・昨年同様の取り組みを継続する。(中学校)

施策項目 9 体力・運動能力の向上

目 標

学校生活や家庭生活を通じ、日頃から運動に親しませ、体力をしっかりと身につけさせる。

目標指標

指 標	指 標 の 概 要	現状(R 5)	R 6	R 7	目標(R 11)
児童生徒の体力・運動能力の状況	全国体力・運動能力、運動習慣等調査における、総合得点の町内児童生徒の値（小学5年生、中学2年生）	小5男 やや上回る 小5女 上回る 中2男 ほぼ同じ(上位) 中2女 下回る	小5男 やや上回る 小5女 やや上回る 中2男 下回る 中2女 やや下回る	小5男 やや上回る 小5女 やや上回る 中2男 ほぼ同じ(上位) 中2女 やや上回る	小中学校ともに 全国平均を上回る
体育の授業以外での運動・スポーツの実施状況	全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、普段の1週間で学校の授業以外で行う運動やスポーツの実施時間	小男 8.6時間 (全国 9.1時間) 小女 4.9時間 (全国 5.4時間) 中男 17.6時間 (全国 12.2時間) 中女 7.4時間 (全国 8.4時間)	小男 10.3時間 (全国 9.2時間) 小女 6.8時間 (全国 5.5時間) 中男 9.5時間 (全国 12.6時間) 中女 8.3時間 (全国 8.6時間)	小男 8.5時間 (全国 8.7時間) 小女 5.2時間 (全国 5.3時間) 中男 10.5時間 (全国 12.6時間) 中女 8.4時間 (全国 8.7時間)	小男・中男女は 現状維持、小女 は全国平均

点検・評価の課題と今後の方向

(1) 体育・保健体育授業の改善

① 令和7年度の取組概要	② 令和7年度の取組の成果や課題	③ 今後の方向性
児童・生徒の体力、運動能力の把握と課題への対応	・体育係が中心となり、全学年実施した。記録は蓄積し、活用している。蘭小サーキットを行い、体育授業の改善にも取り組んだ。(蘭越小) ・全校児童で新体力テストを実施し、分析結果を生かし、その後の体育授業の改善に取り組んだ。(昆布小) ・全国体力運動能力テストを実施し、分析を元に教職員で共通理解を図った。また、経年変化をもとに自分事として自ら運動能力や体力を向上させるように取り組んだ。(中学校)	・今後も継続していく。(蘭越小) ・今後も分析結果を活用した授業改善に取り組む。(昆布小) ・生徒の運動能力の把握や、効果的な能力向上に努める。(中学校)
体育科以外での運動機会の提供	・朝の活動での運動(低学年)、休み時間に体育館、グラウンドでの遊びのほか長縄、短縄、等取り組んだ。(蘭越小) ・休み時間や放課後にマラソンやクロスカントリーに取り組むとともに、放課後子ども教室やスポーツ少年団と連携し、運動の機会提供に努めた。(昆布小) ・部活動の推進、昼休みの体育館開放を日常的に行った。また、体力テスト項目を試せるコーナーを設置して、いつでも自分の体力を把握できるよう取り組んだ。(中学校)	・今後も継続していく。(蘭越小) ・今後も運動機会の提供に努める。(昆布小) ・保体専門委員会を活用して生徒自ら運動意欲の向上を図るよう取り組む。(中学校)

(2) 運動部活動の充実

① 令和7年度の実施概要	② 令和7年度の実施成果や課題	③ 今後の方向性
部活動支援員の活用(中学校)	部活動支援員を活用し、専門的な指導を行うことにより技術の向上や練習方法の工夫など、部活動の活性化に大きな役割を果たした。また、教職員の業務削減に大いに貢献した。(中学校)	地域移行を推進し、地域展開につなげられるよう連携を強化する。(中学校)
学校開放連絡調整による活動支援及びスポーツ団体活動の実施(小学校)	- サッカースポーツ少年団、ジュニアサッカークラブ、野球少年団がグラウンド、体育館を利用して活動を行っている。(蘭越小) - 陸上競技など外部講師を招聘し、活動の充実を図るとともに、各種大会への積極的な参加を促した。(昆布小)	- これからも各団体と連携を図り、活動を支援する。(蘭越小) - 社会教育と連携し活動の継続を図る。(昆布小)

(3) 体育・スポーツ施設の整備と運動機会の充実

① 令和7年度の実施概要	② 令和7年度の実施成果や課題	③ 今後の方向性
体育施設・用具の充実	- 体育係を中心に、体育器具室の整備・点検を実施した。(蘭越小) - 設備や遊具の点検を行い、事故の無いように留意している。クロスカントリー用具については、現状の物品を継続して活用している。(昆布小) - 滑り止め付きマット4枚を購入し、体育授業において有効に活用した。(中学校)	- 今後も継続していく。(蘭越小) - クロスカントリー用具は児童数に対応できる範囲になっているので、現在あるものを計画的に運用していく。(昆布小) - ライン引器と滑り止め付きマット3枚を購入予定。(中学校)

施策項目 10 食育の推進

目 標

学校・家庭・地域がお互いに連携しながら、児童生徒に食に関する正しい知識や望ましい食習慣を身に付けさせ、健全な食生活を実践できる資質や能力の育成に努める。

また、安全で安心な学校給食を提供するため、衛生管理の徹底を図るとともに、地場産物食材の積極的な活用にも努める。

目標指標

指 標	指 標 の 概 要	現状 (R5)	R 6	R 7	目標(R11)
児童生徒の朝食摂取の状況	全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、「朝食を毎日食べていますか」の設問に対して、「食べている」「どちらかといえば食べている」と回答した児童・生徒の割合	児童=96.1% 生徒=93.4%	児童=100% 生徒=90.9%	児童=93.8% 生徒=88.5%	100%をめざす
学校給食における地場産物の活用状況	学校給食における地場産物の購入状況（購入額における割合）	8.02%	8.15%	11.0%	12%以上をめざす

点検・評価の課題と今後の方向

(1) 学校教育における食育の推進

① 令和7年度の取組の概要	② 令和7年度の取組の成果や課題	③ 今後の方向性
・各学校と連携・協力し、食事の重要性やマナー、望ましい食事の摂り方の授業の実施	・各学校と事前打ち合わせを行い。食育に関する授業を、蘭越小6回、昆布小4回、中学校3回実施した。一度では身につかないため、継続した取組が必要である。	・各学校の指導計画に基づき、学級担任や養護教諭等と連携を密にしながら年1回以上の食育に関する授業を実施する。

(2) 地域に根ざした食育の推進

① 令和 7 年度の実施概要	② 令和 7 年度の実施成果や課題	③ 今後の方向性
- 給食だよりには、食材の産地などの表示を実施 - 行事食の積極的な取り入れ	- 給食だよりに、食材の産地表示を実施したことにより、児童生徒が蘭越産の食材を確認認知しやすくなった。 - 行事食を積極的に取り入れたことによって、行事の由来を学ぶ機会につながった。児童・生徒の発達段階に応じた説明文を変える必要がある。	J A、地元納入業者等と連携調整し、引き続き積極的に地場産物食材を活用する。

(3) 学校給食における衛生管理の徹底

① 令和 7 年度の実施概要	② 令和 7 年度の実施成果や課題	③ 今後の方向性
保健所による一斉点検の指摘事項等の早期改善	- 保健所の指導・助言（R7.7）による指摘事項の改善に努めた。 - 器具備品等に関するものは、衛生面等を考慮し随時更新した。 スプーン洗浄機付浸漬装置更新 飯椀 600 個更新	- 調理員を研修会に参加させるなど、衛生管理の意識の高揚に努める。 - 器具備品等の管理を徹底し、事故防止に努める。

施策項目 11 学校段階間の連携・接続の推進

目 標

児童生徒の発達段階に応じた教育の充実を図り、小中連携の推進や、幼保小、小中、中高の学校段階間の円滑な接続や教科等横断的な学習を重視する。

目標指標

指 標	指 標 の 概 要	現状(R 5)	R 6	R 7	目標(R 11)
小中の連携 の状況	教職員による合同研修の実施状況	町教研各部会 による合同研 修を実施(各部 会2～4回)	町教研各部会 による合同研 修を実施(各部 会3～7回)	町教研各部会 による合同研 修を実施(各部 会3～7回)	実施継続
乗り入れ授 業の実施状 況	中から小、高から中への英語の乗 り入れ授業の実施状況	中→小 乗入授業各2回 交流授業各3回 高→中 乗入授業 1回 高→小 交流授業 2回	中→小 乗入授業各1回 交流授業各1回 高→中 交流授業 1回	中→小 乗入授業各1回 交流授業各1回 高→中 見学旅行報告 会1回	実施継続
乗り入れ授 業、交流授 業の実施状 況	小・中双方の教員による授業公 開・授業交流、高校教員による中 学校の授業参観の実施状況(英語 科以外の教科)	授業公開 各小学校2回 (内1回学習発 表会) 中学校4回 授業交流 1回 (昆布小・中学 校→蘭越小)	授業公開 各小学校2回 (内1回学習発 表会) 中学校4回 授業交流 1回 (蘭越小・中学 校→昆布小)	授業公開 各小学校1回 中学校4回 授業交流 1回 (蘭越小・昆布 小→蘭越中)	実施継続

点検・評価の課題と今後の方向

(1) 9年間を見通した教育課程の編成

① 令和7年度の取組概要	② 令和7年度の取組の成果や課題	③ 今後の方向性
発達段階に応じた系統的な教育課程の編成	・教育課程交流会の中で年間行事予定や総合的な学習の計画を交流し、町内での義務教育が系統的な内容になるよう検討した。(蘭越小) ・教育課程交流会を4回実施し、町内での義務教育の系統性が図られるよう検討を行った。(昆布小) ・教育課程交流会において、系統立てたあたたかい学級経営や、総合的な学習の時間の在り方について交流・整理を行った。(中学校)	・継続していく。(蘭越小) ・今後も継続していく。(昆布小) ・令和8年度3学年において探求活動を取り入れた総合的な学習の時間に取り組む。(中学校)

(2) 発達段階に応じた系統性のある学習規律や生活のきまりの定着

① 令和7年度の取組概要	② 令和7年度の取組の成果や課題	③ 今後の方向性
発達段階に応じた系統性のある学習規律や生活のきまりの定着	・「よくわかる蘭越小」を町内で共有した。(蘭越小) ・発達段階に応じた学習規律の徹底・改善と、生活リズムチェックシートによる生活習慣の改善に取り組んだ。(昆布小) ・町教研の小中連携部会において、発達段階に合わせた学習規律として、授業中に机に置く物や学習のルールを策定し、各教科のオリエンテーション資料に記して生徒に指導した。また、話し方や聞き方について9年間を見通した、身に着けさせたい力について確認した。(中学校)	・継続していく。(蘭越小) ・今後も継続していく。(昆布小) ・中1ギャップの解消に向けて、小中での連携を継続する。タブレットの使い方等について小中で統一した指導を図る。(中学校)

施策項目 12 学校運営の改善

目 標

教職員が子どもと向き合う時間を確保できるよう、多忙化の解消に向けた働き方改革を推進するとともに、学校のマネジメント機能の強化を図り組織として教育活動に取り組む体制を構築する。

目標指標

指 標	指 標 の 概 要	現状(R 5)	R 6	R 7	目標(R 11)
在校時間から勤務時間等を減じた時間	教職員の在校時間から条例で定める勤務時間等を減じた時間数を1か月で45時間以内、1年間で360時間以内	一部の教員においては達成できていない	一部の教員においては達成できていない	一部の教員においては達成できていない	100%
定時退勤日の実施状況	業務改善や勤務時間の意識化による月2回の定時退勤日の実施状況	完全実施	完全実施	完全実施	100%
部活動休養日の実施状況	特別な場合を除いて、平日1日、土・日どちらか1日の部活動休養日の実施状況	完全実施	完全実施	大会を除いて完全実施	100%

点検・評価の課題と今後の方向

(1) 教職員の時間外勤務等の縮減に向けた「蘭越町アクションプラン」の取組

① 令和7年度の取組概要	② 令和7年度の取組の成果や課題	③ 今後の方向性
学校閉庁日や定時退勤日等の取組	・夏季休業中に7日、冬季休業中に8日、計15日間の学校閉庁日を設定した。また、毎週金曜日を定時退勤日として設定した。(蘭越小) ・夏季休業中に7日、冬季休業中に8日、計15日間の学校閉庁日を設定した。また、月2回の定時退勤日を設定し取り組んだ。(昆布小) ・夏季休業中に7日、冬季休業中に8日、計15日間の学校閉庁日を設定した。また、定時退勤日を毎月2回設定した。(中学校)	・さらなる業務内容の見直しを図りつつ、各々に合った勤務形態を探っていく。(蘭越小) ・普段から定時退勤ができるよう計画的な業務推進に努める。(昆布小) ・緊急の場合を除き、定時退勤に向けて業務軽減や計画的業務推進を徹底する。(中学校)

(2) 部活動の改善に向けた「蘭越町立学校に係る部活動の方針」の取組

① 令和7年度の取組概要	② 令和7年度の取組の成果や課題	③ 今後の方向性
生徒のバランスのとれた学校生活や教師の部活動指導における負担軽減(中学校)	・部活動指導員が平日の部活動において技術指導を担っていることで、顧問の負担が大きく軽減された。土日においては顧問がつかなくても、地域クラブ活動として活動した。また、閉庁日の設定により休日の休養日が取れるようになり、生徒・教職員の負担軽減につながった。	・令和8年度より週11時間以内の活動(週2日の休養日を設定)と部活動ガイドラインが改訂された。家庭での時間を有効に使うために保護者との連携や共通理解が必要。

施策項目 13 学校安全教育の充実

目 標

自他の生命尊重の理念に基づいて、児童生徒が自ら危険を予測・回避し、他の人や社会の安全に貢献できる資質能力を育成する。

目標指標

指 標	指 標 の 概 要	現状(R 5)	R 6	R 7	目標(R 11)
安全学習	学校安全の全体計画を策定し、各教科の年間指導計画に計画的、系統的に学習内容を位置付けた授業実践を行う	計画的、系統的に学習内容を位置付けた授業実践を行った。(全小中学校)	計画的、系統的に学習内容を位置付けた授業実践を行った。(全小中学校)	計画的、系統的に学習内容を位置付けた授業実践を行った。(全小中学校)	継続実施
安全指導	家庭や地域、社会教育と連携し、学級活動や学校行事等において安全に生活する態度を育成する活動を行った学校の割合及び実践事例を行う	関係機関と連携し、一定の実践ができている(全小中学校)	関係機関と連携し、一定の実践ができている(全小中学校)	関係機関と連携し、一定の実践ができている(全小中学校)	継続実施

点検・評価の課題と今後の方向

(1) 安全学習

① 令和7年度の実施概要	② 令和7年度の実施成果や課題	③ 今後の方向性
学習活動における取組	- 年間指導計画にもとづき、発達段階に応じて教育活動の中で実施した。(蘭越小) - 各教科の学習の中で、計画を元に安全学習を行った。(昆布小) - 保健体育科で障害や事故の防止、家庭科で食の安全、技術科で安全な用具の取り扱いについて学習した。(中学校)	- 計画の改善、見直しをしつつ、これからも実施していく。(蘭越小) - 今後も継続していく。(昆布小) - 実生活と教科での学習を関連させ、安心で安全な生活を送るよう啓発する。(中学校)

(2) 安全指導

① 令和7年度の実施概要	② 令和7年度の実施成果や課題	③ 今後の方向性
関係機関との連携による学校生活の指導	- 普段から学級活動などで学校生活内のほか登下校等における安全についての指導、啓発を行った。また各関係機関と連携を図り、歩行教室、自転車教室等の安全指導を実施した。(蘭越小) - 学級活動や、交通安全教室などの学校行事で安全指導を実施した。(昆布小) - 交通安全教室、防犯教室などの特設授業の他、日常の学校生活を安心・安全に送るよう指導した。(中学校)	- これからも継続、改善して実施していく必要がある。(蘭越小) - 今後も継続していく。(昆布小) - 行事や学期の終わりなど、節目において安全に学校生活を送ることができたか振り返るよう指導する。(中学校)

(3) 防災訓練

① 令和7年度の取組概要	② 令和7年度の取組の成果や課題	③ 今後の方向性
避難訓練の実施	・年間計画にもとづき、避難訓練を2回実施。その他集団下校にかわる「引き渡し下校訓練」を実施。1日防災学校も実施。(蘭越小) ・火災、地震、洪水などの想定で、避難訓練を実施した。(昆布小) ・年に2回の避難訓練(火災・地震)と北海道シェイクアウト(巨大地震を想定した避難訓練)を実施した他、一日防災教室において避難所運営ゲームを行い防災意識の高揚を図った。(中学校)	・これからも自分自身の身を守るため、最悪の事態を想定した訓練を実施していく必要がある。引き渡し下校訓練については、学年ごと行ったが、今後は全学年一斉に行っていく。(蘭越小) ・今後も内容の改善や想定の変更を行いながら継続していく。(昆布小) ・継続して計画的に実施することに加えてクマ対策の訓練を実施予定。(中学校)

施策項目 14 学校と地域の連携・協働の推進

目 標

学校と地域が目標やビジョンを共有し、一体となって子どもたちを育んでいくような、学校と地域がパートナーとして連携・協働した組織的な取組の推進。

目標指標

指 標	指 標 の 概 要	現状(R 5)	R 6	R 7	目標(R 11)
地域への参加の状況	全国学力・学習状況調査の地域への参加の状況に関する調査事項に、良好な回答をした児童生徒の割合	小 85.7% 中 25.0%	質問項目なし	質問項目なし	90%以上
コミュニティ・スクールの運営	コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の人材を活用し、各学校において効果的な運用を図る	導入済み	継続実施	継続実施	継続実施

点検・評価の課題と今後の方向

（１）コミュニティ・スクールの導入・推進

① 令和 7 年度の取組概要	② 令和 7 年度の取組の成果や課題	③ 今後の方向性
地域の教育力や特色を活かした学校づくり・子どもの活動拠点づくりとしてのコミュニティ・スクールの推進	・コミュニティスクール学校部会では、コミュニティスクール委員が児童の活動写真への「応援メッセージ」を添える取組を通して、「学校の応援団」として活動できた。（蘭越小） ・学校経営案や学校評価など、コミュニティスクールの機能の充実が図られた。（昆布小） ・各行事において学校運営協議会中学校部会の方に案内を出し、参加していただいた上で学校運営協議会を開催した。（中学校）	・地域と学校の連携をさらに深めていく。（蘭越小） ・学校部会ごとの活動の充実や学校課題解決に向けた検討が進むよう取組を進めていく。（昆布小） ・儀式行事や参観日、体育大会、学校祭など参加機会を増やしてコミュニティスクールの機能充実を図る。（中学校）

（２）特色ある学校づくりの推進

① 令和 7 年度の取組概要	② 令和 7 年度の取組の成果や課題	③ 今後の方向性
学校と地域をつなぐ人材の活用した特色ある学校づくり	・総合的な学習での「プロジェクト米」、花一会図書館の「広がる本だな」等地域人材を活用した取組を行った。（蘭越小） ・総合的な学習の時間で、地域の特性を再認識する授業を行った。今年度の活動における地域人材の人材バンクを作成した。（昆布小） ・花一会図書館の協力のもと、生徒がつくる学級文庫や広がる本だな事業等の実施や、蘭越町防災監の協力のもと港地区防災センター見学を実施した。（中学校）	・これからも継続していく。（蘭越小） ・地域人材が活用しやすい人材バンクの整備を続ける。（昆布小） ・地域学校協働活動推進員の活用を活性化させ、地域に根ざした教育の推進を図る。（中学校）

施策項目 15 地域に根ざした高校づくりに向けた支援

目 標

蘭越高校で学びたい、学ばせたいという認識と蘭越高校が地域に欠くことのできない学校であるという認識の醸成による入学者の確保。

目標指標

指 標	指 標 の 概 要	現状(R 5)	R 6	R 7	目標(R 11)
蘭越中学校からの蘭越高校への入学率	高校存続に向け、地元の生徒の入学率の維持向上	33.7% (27人中9人)	41.6% (36人中15人)	50.0% (34人中17人)	50%
学校間連携による外国語の授業の実施	高校の教員・生徒による幼保小中への乗り入れ授業、TT（チーム・ティーチング）等の実施	高→蘭越小 1回実施 高→昆布小 1回実施 高→中学校 2回実施	高→蘭越小 1回実施 高→昆布小 1回実施 高→中学校 実施なし	高→蘭越小 実施なし 高→昆布小 実施なし 高→中学校 実施なし	事業継続

点検・評価の課題と今後の方向

(1) 生徒募集に向けた効果的な支援

① 令和7年度の取組概要	② 令和7年度の取組の成果や課題	③ 今後の方向性
生徒のニーズや資質を把握した、きめ細かな学習指導や進路相談	・3年間を通してキャリア教育を実施し、生徒自身が様々な職業について学ぶことで、自分の特性や興味関心のある職業について考える機会を設定した。また、教育相談等を通じて細やかな進路指導に努めた。 (中学校)	・自らの進路を考える上で蘭越町との将来的な関わりに目を向けられる進路指導の充実を図る。(中学校)

(2) 連携した外国語教育の充実

① 令和7年度の取組概要	② 令和7年度の取組の成果や課題	③ 今後の方向性
保育所・幼稚園・小学校・中学校・高校が連携した外国語教育の充実	・ワーキングチームが中心となり、スムーズな橋渡しを行うことができるように取組を進めることができた。(蘭越小) ・中学校教員の外国語授業への乗り入れを行った。(昆布小) ・ワーキングチーム会議を実施し、乗り入れ授業、授業参観、授業交流など他校種と連携して外国語教育の充実を図った。(中学校)	・今後も系統性を持った取組を各校種無理のない程度で進めていくのが望ましい。(蘭越小) ・高校の負担にならない範囲で、連携が進められるように配慮する。(昆布小) ・持続可能な取り組みとなるようきめ細かく引継ぎを行い事業の推進を図る。(中学校)

施策項目 16 生涯学習関連施設の整備・管理運営と効果的な利活用の推進

目 標

生涯学習活動の場となる社会教育施設など、地域住民が主体的に活用できるよう施設の計画的な整備と適正な管理運営に努めるとともに、各幅広い年代のニーズに対応できる多様な学習の場として、各施設の効果的な利活用を図ります。

目標指標

指 標	指 標 の 概 要	現状(R 5)	R 6	R 7	目標(R11)
生涯学習 関連施設 機能の充 実	・各地区が連携した事業の 実施 ・地域ニーズのある事業の 展開	随時	継続	継続	継続
施設 の 利 便性向上	・施設用のオンライン申請 (予約) の利便性向上 (見える化)	随時	随時	デジタル 推進を図 る	継続
施設 の 計 画的な整 備と適正 な運営管 理	・施設の安全と機能の充実 を図るため、施設の計画的な 整備を行うとともに、適正な 管理運営に努める	随時 不良箇所の修理	継続	継続	継続

点検・評価の課題と今後の方向

(1) 生涯学習機能の充実

① 令和 7 年度の取組の概要	② 令和 7 年度の取組の成果や課題	③ 今後の方向性
各地区が連携した事業の実施及び地域ニーズのある事業の展開と支援	・昆布地区振興会と連携し、同地区文化祭で蘭越町根曲がり竹細工研究会協力をいただいて出前講座を実施した。なお、他の地区からの要望等はなし。	・要望に応え継続して実施する。

(2) 施設の利便性向上

① 令和 7 年度の取組の概要	② 令和 7 年度の取組の成果や課題	③ 今後の方向性
施設用のオンライン申請(予約)の利便性向上を図る	・令和 7 年度「マチナビらんこし」からのオンライン施設予約は 8 件。窓口に来なくても申請が出来ることから、利便性が高まっている。	・今後も継続受付をする。

(3) 施設の計画的な整備と適正な運営管理

① 令和7年度の取組の概要	② 令和7年度の取組の成果や課題	③ 今後の方向性
施設の安全と機能の充実を図るため、施設の計画的な整備を行うとともに、安心して安全な管理運営に努める。	令和7年度施設修繕実績 ・融雪用高圧交流負荷開閉器電力ヒューズ交換 ・全館空調設備完備による快適な利用環境の促進	施設の老朽化対策として、経年劣化を鑑み、修繕が必要な箇所については、予算要望も含めて協議していく。

施策項目 17 誰もが参加しやすい環境づくりの推進

目 標

誰もが、いつでも、どこでも学習活動を気軽に始めることができ、生涯にわたって学び続けられるよう、参加しやすい環境整備を推進します。

仕事と育児・介護の両立をしている方や高齢者・障がい者などを支援する事業の充実により、学習機会や社会参加機会の環境づくりを推進します。

目標指標

指 標	指 標 の 概 要	現状(R 5)	R 6	R 7	目標(R11)
参加しやすい環境整備の推進	・学習情報の提供と、身近に行える多様な学習機会や交流機会の提供を図る	随時	継続	継続	継続
学びの情報提供	・デジタルを利用した、学習情報の提供	随時	継続	継続	継続

点検・評価の課題と今後の方向

(1) 参加しやすい環境整備の推進

① 令和7年度の取組の概要	② 令和7年度の取組の成果や課題	③ 今後の方向性
学習情報の紹介や提供と、身近に行える多様な学習機会や交流機会の提供	○令和7年度講座_10 講座開催 ○生涯学習講演会_1 回 各種講座等の学習情報や紹介、学習機会や交流機会については、マチナビらんこしや紙媒体により情報提供に努めた。	・マチナビらんこし等を活用した情報提供と、各種講座への参加を促す。

(2) 学びの情報提供

① 令和7年度の取組の概要	② 令和7年度の取組の成果や課題	③ 今後の方向性
デジタルを利用した、学習情報の紹介と提供	・町ホームページやマチナビらんこしのアプリを活用した情報の紹介をすることが出来ましたが、紙媒体を削減するためにも継続的な取組が必要。	・今後も検討しながら展開を図る。

施策項目 18 地域人材の活用に向けた発掘と養成

目 標

生涯学習活動を支援・サポートする担い手として活躍いただくため、地域の中から有望な人材を発掘し養成します。担い手が有する様々な知識・技能・能力を地域に還元し、生涯学習の振興を図り、地域の活性化につなげます。

目標指標

指 標	指 標 の 概 要	現状(R 5)	R 6	R 7	目標(R 11)
地 域 人 材 の 発 掘 と 担 い 手 の 養 成	「(仮称) つながりバンク」 を新たに作成	随時	随時	検討	検討
コ ー デ ィ ネ ー タ ー の 充 実	多様な学習活動機会を希 望する学習と、関連施設・ 機関や講師役等を円滑に つなげられるコーディネ ーターの人材育成	随時	随時	検討	人材の確保 に向け検討。

点検・評価の課題と今後の方向

(1) 地域人材の発掘と担い手の養成

① 令和7年度の取組の概要	② 令和7年度の取組の成果や課題	③ 今後の方向性
人材を把握するため「(仮称) つながりバンク」を新たに作成	・既存の「生涯学習ボランティアバンク」を精査し、既存の人材バンクに結び付けて、新たな人材発掘に努める。	検討

(2) コーディネーターの充実

① 令和7年度の取組の概要	② 令和7年度の取組の成果や課題	③ 今後の方向性
コーディネーターの人材育成（養成）を図る	・これまでコーディネーター役は担当係が担っているが、今後は、人材を養成し地域や学校との連携が図れる人材の発掘が必要。	人材発掘と養成を検討。

施策項目 19 多様な学習機会の提供と充実

目 標

社会情勢の急激な変化や、高度化・多様化した町民の学習ニーズにこたえるため、ライフステージに応じた魅力ある学習機会の提供と充実を図ります。

目標指標

指 標	指 標 の 概 要	現状(R 5)	R 6	R 7	目標(R 11)
多様な学習機会の提供と充実	各ライフステージに応じた学習機会の周知や現代的課題に対する学習の充実	都度、実施	各種講座の開催	継続	継続

点検・評価の課題と今後の方向

(1) 多様な学習機会の提供と充実

① 令和7年度の取組の概要	② 令和7年度の取組の成果や課題	③ 今後の方向性
生涯学習情報についてあらゆる機会や媒体を活用して、広く周知し、誰もが生涯学習に触れる「きっかけづくり」を提供するとともに情報共有の支援に努め、活動への参加を促進する	関係機関からの情報収集とデジタルの活用の推進 ・各種講座の開催 ・町ホームページやマチナビらんこしを活用した情報発信	・近年、ペーパーレス化が進む中、紙媒体の削減を最小限に抑える。

施策項目 20 芸術・文化活動の充実

目 標

町の芸術・文化活動を積極的に奨励・支援するとともに、町民が身近に芸術・文化にふれる機会の創出に努めます。

目標指標

指 標	指 標 の 概 要	現状(R 5)	R 6	R 7	目標(R 11)
芸術・文化活動の充実	芸術・文化の振興を図り、鑑賞・文化活動を行う機会の提供を図る	随時	随時	随時	随時
歴史や文化等地域資源を生かした学習機会の提供と充実	地域資源に関わる学習機会の提供と文化財の利活用を図る	史跡地マップ作製	町内史跡地の現地調査	調査完了	R 7で調査が完了し、R 8で町ホームページに掲載。 目標達成

点検・評価の課題と今後の方向

(1) 芸術・文化活動の充実

① 令和7年度の取組の概要	② 令和7年度の取組の成果や課題	③ 今後の方向性
町民の継続的な生涯学習活動を支援するために、関係機関や施設と連携・協力し事業の充実に努め、交流活動の場、学習成果を発表できる場に努めます。	・ 蘭越町青少年健全育成研究集会において、児童生徒の学習成果を発表する機会を設け、保護者や町民にその成果を発表した。	・ R 7で蘭越町青少年健全育成研究集会が廃止となったことに伴い、児童生徒の学習発表の場を、(仮称)「児童生徒実践発表会」と題して町芸能文化祭と兼ねて実施する。

(2) 歴史や文化等地域資源を生かした学習機会の提供と充実

① 令和7年度の取組の概要	② 令和7年度の取組の成果や課題	③ 今後の方向性
史跡地めぐり（観光ツアー）等を開催し、誰もが学べる機会の創出をめざす。	・ 町内史跡地の調査は完了しているが、史跡地めぐりツアーについては要検討課題である。	・ 蘭越ふるさと学習館を有効に活用し、史跡地について学ぶ機会を検討する。

施策項目 21 学習成果の活用推進

目 標

学習活動において習得した成果を発表する機会や、その知識を生かして活躍できる場の創出に努め、町民の生きがいづくり、学習意欲の向上を図ります。

目標指標

指 標	指 標 の 概 要	現状(R 5)	R 6	R 7	目標(R 11)
成果の発表や活躍の場・機会の創出	サークル、学校、もしくは地域づくり活動において習得した成果を発表する機会や活躍の機会を創出する	随時	随時	随時	発表の場の提供

点検・評価の課題と今後の方向

(1) 成果の発表や活動の場・機会の創出

① 令和7年度の取組の概要	② 令和7年度の取組の成果や課題	③ 今後の方向性
学習の成果を地域へ還元しやすい環境づくりを進め、生涯学習を通じたコミュニティの再構築や、世代を超えて多様な価値観や考え方に共感できるような世代間の交流を積極的に推進し、地域への参画が促進される循環に努める	・ 蘭越町芸能文化祭や蘭越町文化祭への参加 ・ 生涯学習サークルの人材を活用した地域での学習活動の展開	・ 現状を、見据えながら事業を展開する。

施策項目 22 学びを通じた地域活性化の推進

目 標

学習活動を通じた仲間づくりや新たな人間関係の形成により、地域社会の活性化を推進します。

目標指標

指 標	指 標 の 概 要	現状(R 5)	R 6	R 7	目標(R 11)
学 び を 通 じ た 地 域 活 性 化 の 推 進	家庭・学校・地域との連携 強化を図り、地域全体の教 育力の向上と地域の活性 化を図る	随時	随時	随時	随時

点検・評価の課題と今後の方向

(1) 地域全体の教育力の向上

① 令和7年度の取組の概要	② 令和7年度の取組の成果や課題	③ 今後の方向性
地域課題解決やまちづくり について学び、その成果を 生かし関係者が協働して行 う活動を支援する	・ 地域の人材を活用した学習機会 を提供し、放課後子ども教室と の連携を図った。	・ 今後も人材発掘に 努め、放課後子ども 教室と連携を図り ながら事業を展開 する。

施策項目 23 みんなが集う花一会図書館

目 標

町民や地域のニーズに合った図書資料の選書、郷土の歴史や文化に関する地域資料の収集に努める。

町民の知りたい情報や技術について図書資料を通して支援する、学習・情報拠点としての図書館機能を整備する。

目標指標

指 標	指 標 の 概 要	現状(R 5)	R 6	R 7	目標(R11)
貸出冊数	館内個人年間貸出冊数	36,203 冊	36,673 冊	40,869 冊	38,000 冊
来館者数	図書館年間来館者数	21,577 人	23,070 人	23,553 人	2万人以上の維持をめざす

点検・評価の課題と今後の方向

(1) 図書館機能の充実

令和7年度の取組の概要	令和7年度の取組の成果や課題	今後の方向性
町民のニーズを捉えた図書資料の選定、収集 (毎週、新刊を含む図書の購入、陳列)	・図書 購入回数 71 回、購入冊数 1,429 冊 ・雑誌購入 月刊・季刊 17 誌、161 冊 ・資料収集方針、資料選定基準、除籍基準を改定し、選書のバランスに注力した。	・図書購入の選書は、職員の輪番制で行っていく。
館内テーマ展示の実施	・エントランスに話題本、新刊本展示を常設、随時入れ替えして展示した。 ・配架は、常に注意を払うことができていた。	・継続する。
定期的な読書案内の発信	・図書館だよりを年 5 回発行 ・目にとめて読んでもらうために、一般に知られていない郷土資料の紹介などを組み込んだ。 ・郷土探索の道 歴史探索・探索編 3 回 ・地域資料の提供を公募しても、応募や提供がなく記事ネタが枯渇。	・機会あるごとに地域資料の提供の呼びかけを継続する。
ホームページや SNS (ソーシャル・ネットワーキング・サービス) を活用した図書館情報の発信	・SNS (Facebook,X (旧 witte r) ,Instagram) で新刊本、館内展示、図書館活動状況を随時発信した。 ・発信情報がマンネリ化しないよう、発信情報の多様化に努める。	・継続する。

(2) 図書館活動の推進

① 令和7年度の取組の概要	② 令和7年度の取組の成果や課題	③ 今後の方向性
図書館講座（絵本講座、趣味の講座等）の開催	・4/30「本物の健康情報④今日からできる電磁波対策」（講師：中村紫乃氏）2名 ・5/17「ママにもできる！チャイルドカット」（第1回）（講師：照井正和氏（美容室KAZU））8名 ・6/7「ポーズをしないヨーガ part4」（講師：藤原千波氏）2名 ・6/28 指田和氏講演会「ヒロシマの取材や絵本づくりを通して共にみつめる平和やいのち」～開催協力（主催：本との楽しい出会いを創る会ー子どもゆめ基金助成事業）51名 ・7/6 第8回蘭越ブキニスト テーマ「図書館で感じる！」、参加店舗・ブース 24店舗 来場者約300人、 ・9/6「ポーズをしないヨーガ part5」（講師：藤原千波氏）1名 ・10/4 ハープ&朗読の会（ハープ演奏：更科理恵氏、朗読・オカリナ演奏：工藤ひろ子氏）42名 ・10/15「野菜づくりのコツと裏ワザ」（講師：農村漁村文化協会 寺元和夫氏）43名 ・12/6「ポーズをしないヨーガ part6」（講師：藤原千波氏）2名 ・12/13「ママにもできる！チャイルドカット」（第2回）（講師：照井正和氏（美容室KAZU））4名 ・3/14「ポーズをしないヨーガ part7」（講師：藤原千波氏）1名	・「ママにもできるチャイルドカット」 ・「ポーズをしないヨーガ」 ・8/1 五花南フォーラム（馬頭琴とサンドアートと語り、朗読） ・10/3 ハープ&朗読の会
図書館祭り等の開催	・7/6 第8回蘭越ブキニスト開催 テーマ「図書館で感じる！」、参加店舗・ブース 24店舗 来場者約300人	7/5 に開催 テーマ「図書館で”つながる”！」
図書館ボランティアの協力による定期的なおはなし会等の開催	・ぴよぴよおはなし会～月1回（第1金曜日）、乳幼児親子を対象に職員によるおはなし会を実施 11回 延22組 51人 ・偶数月第1金曜日、奇数月第1土曜日に開催したが、参加者数に違いはなかったため、次年度は金曜日に固定する。 ・おはなしひろば～月1回（第3日曜日）、すべての町民を対象に職員とボランティアによる読み聞かせ等を実施 12回 延べ28組 77人 ・おはなし会、おはなしひろばとも集客が課題。	「おはなしひろば」は、町内の他の行事との重なり配慮しながら開催日を設定して実施する。

施策項目 24 外に飛び出す図書館活動

目 標

乳幼児から高齢者まで、あらゆる機会とあらゆる場所において読書活動ができるよう、移動図書館や施設内文庫の設置などの図書館活動を積極的に取り進める。

目標指標

指 標	指 標 の 概 要	現状(R 5)	R 6	R 7	目標(R 11)
移動図書館実施回数	移動図書館年間実施回数	7 回	5 回	4 回	10 回以上をめざす
学習支援資料提供数	小中学校授業支援提供図書年間冊数(児童・生徒一人当たり)	小学校 8.6 冊 中学校 1.2 冊	小学校 4.7 冊 中学校 6.2 冊	小学校 9.2 冊 中学校 2.7 冊	小学校 10 冊以上、中学校 4 冊以上を目指す

点検・評価の課題と今後の方向

(1) 移動図書館の実施、施設内文庫の設置

令和 7 年度の取組の概要	令和 7 年度の取組の成果や課題	今後の方向性
ブックスタート事業	・ブックスタート 健やか健診時偶数月 6 回実施、22 組に絵本 2 冊を贈呈 検診時だけでなく、随時に機会を設け、対象者全員対面で実施できた。 ・ブックセカンド 3 歳児を対象として随時実施、11 組に絵本 1 冊を贈呈 対象者の来館が少ない。対象者 21 組中 11 組しか実施できなかった。	・ブックスタート～3 か月検診時だけにこだわらず随時行う。 ・ブックセカンド～令和 8 年度は従来の方法で継続するが、対象者の来館状況を見ながら検討する。
幼稚園・保育所、子育て支援センター施設内文庫の設置	・ひばり幼稚園 6 回 1,475 冊 ・昆布保育所 6 回 502 冊 ・蘭越保育所 6 回 1,606 冊 ・支援センター 6 回 402 冊 ・昆布温泉病院保育所 4 回 165 冊 ・ベアーズこども園 6 回 245 冊	・各保育所、幼稚園、ベアーズこども園と連携して、小さい頃から図書館に慣れ親しんでもらえるよう取り進める。
放課後子ども教室・学童保育所への移動図書館の実施、施設内文庫の設置	・子ども教室 17 回 632 冊(文庫設置 5 回 181 冊) ・学童保育所 11 回 529 冊(文庫設置 11 回 167 冊)	・移動図書館で読み聞かせなどを行い、読書に親しむ機会を積極的に設けていく。

保健福祉センター・各役場出張所施設内文庫の設置	・保健福祉センター 12回 906冊 ・目名出張所 6回 427冊 ・昆布小職員室 5回 72冊 ・蘭越小職員室 6回 196冊 ・蘭越中職員室 4回 76冊	・あらゆる場所において、自主的な読書活動を行うことができるよう施設内文庫の充実に取り組む。
お手軽文庫（訪問サービス専門員の安否訪問時に在宅高齢者へ配本）の実施	・12回 延べ63人、1,612冊配本	・健康推進課と連携しながら読書サービスの実施を継続する。
高齢者生活福祉センター、老人施設等への移動図書館の実施、施設内文庫の設置	・高齢者生活福祉センターこんぶ個人貸出 24回 510冊 - 文庫設置 24回 379冊 ・高齢者生活福祉センターめな文庫設置 12回 475冊 ・昆布温泉病院個人貸出 24回 785冊	・大活字本の蔵書を増やすなど可能な限りリクエストに応えた配本としていく。
一般住民を対象とした移動図書館の実施	・移動図書館～講演・イベント他会場での移動図書館の開設 実施回数4回 延べ13人 18冊 ・土日のイベント等への移動図書館の開設は、勤務体制もあり難しかった。	・土日や夜間の講演会等は人員配置が難しい。平日は、効果が労力にまったく見合わない。～当面、定期的な実施は見合わせる。

（２）学校図書館運営・活動支援

令和7年度の取組の概要	令和7年度の取組の成果や課題	今後の方向性
学校図書館巡回派遣事業の実施、学校図書館図書センター事業の充実	・巡回派遣 延べ160日（3校） ・各学校で学校図書館利用計画が策定されたが、各学校の教員への浸透が課題。	・各学校の学校図書館利用計画に沿った学校図書館活用を働きかける。
小学校～「みんなの本だな事業」による学級文庫の充実	・みんなの本だな 昆布小2回、蘭越小2回実施 ・学級文庫配本 昆布小5回 1,369冊 蘭越小5回 3,241冊	・継続して、みんなの本だな事業を年2回実施する。
中学校～「ひろがる本だな、生徒が作る学級文庫事業」による学級文庫の充実	・ひろがる本だな 1回 1日間で全学年実施 ・移動図書館による生徒が作る学級文庫 1回 各学年1日間実施 ・学級文庫配本 5回 1,260冊	・本との関わりを持たせ、読書をするきっかけを作り続けていく。

施策項目25 生涯にわたるスポーツ活動の推進

目 標

各種スポーツ施設の充実に伴い、健康・体力づくりに対する関心が高まってきており、スポーツに対するニーズも多様化している。子どもからお年寄りまで、生涯スポーツ活動に親しむ意識の啓発をするとともに、スポーツ推進委員と総合型地域スポーツクラブの連携を強化し、町民が気軽にスポーツに親しめる環境づくりを進め、生涯スポーツの充実に努める。

目標指標

指 標	指 標 の 概 要	現状(R 5)	R 6	R 7	目標(R11)
ニュース スポーツの 推進	新たな種目の取組と普及	コロナウイルス感染症で中止となった大会を3年ぶりに開催	小学生から高齢者まで幅広い年代で、楽しい交流ができた	小学生から高齢者まで幅広い年代で、楽しい交流ができた	新種目のニューススポーツの紹介・普及を図り、異なる年齢での交流をめざす
スポーツ ライフの 推進	本町の自然や施設等を活用したスポーツ事業の普及と推進	活動種目ごとに創意工夫をしながら活動の充実を図り、交流に努めた	活動ごとに創意工夫しながら活動の充実を図った	活動種目の見直しを行いながら、活動の充実と参加者間の交流に努めた	ライフスタイルに適応した種目の見直しを図り、継続とより一層の充実と推進をめざす

点検・評価の課題と今後の方向

(1) ニューススポーツの推進

① 令和7年度の取組の概要	② 令和7年度の取組の成果や課題	③ 今後の方向性
ニューススポーツの推進	・スポーツ推進委員主催のニューススポーツ大会を開催し、新競技としてモルックを取り入れ好評を得られるなど、ニューススポーツの普及や参加者間の交流を図ることができた	・スポーツ推進委員と連携しながら、異なる年齢間で行うことのできる種目の選定と、普及に努める

(2) スポーツライフの推進

① 令和7年度の取組の概要	② 令和7年度の取組の成果や課題	③ 今後の方向性
スポーツライフの推進	・総合体育館スポーツクラブの開講により参加者が様々なスポーツに取り組むことができた。 ・昨年に引き続き町外で町民歩こう会を開催し、一定数の参加者を確保することができた	・総合型地域スポーツクラブ（らんスポ）との連携を強化し、活動の充実と推進を図る

施策項目26 児童生徒のスポーツ活動の充実

目 標

スポーツ協会等の協力を得ながらスポーツ少年団活動の充実を図り、指導者の育成や児童生徒を対象とした各種スポーツ大会等の開催・支援に努め、より多くの児童生徒がスポーツと触れ合う機会を増やす等、意識啓発を図り、積極的にスポーツに親しむ環境づくりが望まれる。

スポーツ少年団活動や部活動の活性化、各種スポーツ教室や大会を充実するとともに、多くの児童生徒が気軽に楽しく参加でき、積極的にスポーツを親しむ環境づくりに努める。

目標指標

指 標	指 標 の 概 要	現状(R 5)	R 6	R 7	目標(R 11)
スポーツ少年団活動の育成・強化	誰もがスポーツ・レク活動に親しめる環境づくりと指導者の充実	各スポーツ少年団での大会が開催され、道大会への出場もあり、各少年団の強化が示された	ウインタースポーツも含め、大会で好成績を収めている。多種目で少年団の強化が示された	各大会で好成績を収めており、多種目で少年団の強化が示された	指導者の養成及びスポーツ少年団員の増員と交流事業の開催をめざす
各種スポーツ教室等の開催	スポーツ教室等の開催状況	幼児・小学生を対象に水泳教室とスキー教室を開催	幼児・小学生を対象に水泳教室とスキー教室を開催	水泳、バドミントン、スキー教室のほか、プロバレーボール選手を講師としてバレー教室を開催した	スポーツ協会と連携し指導者の育成を進め、各種スポーツ教室での指導の充実をめざす
中学校部活動の地域移行の推進と充実	中学生が充実したスポーツ活動を行う環境の整備と指導者の確保と育成	部活動指導員を全部活に配置	らんスポスポーツ部がベースとなり、支援・協力することができた	土日・祝日の部活動の受け皿としてらんスポスポーツ部で活動を行った	平日も含め完全移行

点検・評価の課題と今後の方向

(1) スポーツ少年団活動の育成・強化

① 令和7年度の取組の概要	② 令和7年度の取組の成果や課題	③ 今後の方向性
スポーツ少年団活動の育成・強化	・スポーツ少年団の育成強化を図るため、育成費を増額し各少年団へ配付した ・各少年団ともに団員数や指導者が減少しており、その確保が課題となっている	・スポーツ少年団組織の確立を図るため、スポーツ協会の競技団体との連携に努める

(2) 各種スポーツ教室等の開催

① 令和7年度の取組の概要	② 令和7年度の取組の成果や課題	③ 今後の方向性
各種スポーツ教室等の開催	・各種スポーツ教室を開催し、技術の向上のみでなく、スポーツに触れ合う場を広く提供することができた	・スポーツ協会やスポーツ少年団等が連携して主催するスポーツ教室の継続開催に努める

(3) 中学校部活動の地域移行の推進と充実

① 令和7年度の取組の概要	② 令和7年度の取組の成果や課題	③ 今後の方向性
中学校部活動の地域移行と充実	・らんスポスポーツ部が土日・祝日の部活動の受け皿として活動した ・野球部の新しい取組として、メソッドベースを実施し、技術の向上につながった	・充実した部活動を展開するため、中学校や総合型地域スポーツクラブとの連携強化に努める

施策項目27 スポーツ環境の充実

目 標

より多くの町民が安心、安全にスポーツに親しみ、既存施設を効率的かつ効果的に利用できるよう努めるとともに、老朽化により改修等が必要な施設については、緊急性の高いものから計画的に改修や維持補修を進める。

目標指標

指 標	指 標 の 概 要	現 状 (R 5)	R 6	R 7	目標(R 11)
施設の有効利用	各種施設の有効利用状況	町外団体へも積極的に施設の開放を行った	トレーニングルームの町外利用者も増えてきた	トレーニングルームの町外利用者も増えてきた	町外団体への開放を継続し、各種施設の一層の有効利用をめざす
施設の計画的改修整備	老朽化する各種施設の整備状況	館内暖房ボイラー修理、館内給水ポンプ修理、体育館玄関・屋外駐車場外灯新設	館内遊戯室カーペット張替え、野球場スコアボード修理	館内屋内消火栓設備交換修理、ゲートボール場人工芝張替	整備計画を作成し、老朽化施設の改修、充実をめざす

点検・評価の課題と今後の方向

(1) 施設の有効利用

① 令和7年度の取組の概要	② 令和7年度の取組の成果や課題	③ 今後の方向性
施設の有効利用	・夜間利用団体打ち合わせ会議を開催し、総合体育館の利用調整に努めた ・トレーニング室は町内外の方に利用いただいております、延べ利用人数も増加している	・施設の有効利用を図り、利用者が快適に使用できるよう努める

(2) 施設の計画的改修整備

① 令和7年度の取組の概要	② 令和7年度の取組の成果や課題	③ 今後の方向性
施設の計画的改修整備	・各所管施設で保守点検を実施し、優先度の高い箇所から修繕を行った ・施設も老朽化しており、修繕に多額の費用が見込まれるものもあるため、緊急性を考慮しながら随時改修を行う必要がある	・施設を利用する方々に、安心して利用していただけるよう、施設整備に努める

第3章 外部評価

第3章のポイント

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第2項に、「点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ること」が定められていることから、評価の客観性を高めるため、外部評価委員による点検評価を行いました。

1 学識経験者

役 職	氏 名	所 属 等
委 員 長	檜 伊佐夫	元蘭越中学校校長
副委員長	福 島 雅 史	元蘭越町 P T A 連合会長
委 員	守 田 英 樹	蘭越高等学校長
委 員	初 山 洋一郎	蘭越中学校 P T A 会長

2 聴取日等

日時 令和8年8月20日（木） 午後3時00分～午後4時50分

場所 蘭越町役場 3階委員会室

3 総括的評価

令和7年度の教育推進計画に基づく内部評価について、外部評価委員会において評価を行った。

全体として、令和7年度から令和11年度を計画期間とする「蘭越町教育推進計画」に掲げられた各施策は、概ね計画的に実施されており、着実な成果を上げていると評価できる。特に、中学校部活動の地域移行に向けた先進的な取組、さらには蘭越高校への入学率が目標値の50%に到達したことは、特筆すべき成果である。

一方で、ICT指導力の個人差の解消や、管理職等一部の教職員への校務負担の集中、社会教育施設のオンライン予約の浸透、さらには指導者の高齢化への対応など、次年度以降に向けて取り組むべき課題も明確となった。

今後は、これらの課題に対し、関係機関や大学等との連携をさらに深めるとともに、学校・家庭・地域が一体となった教育環境の整備を継続して推進していくことを期待する。

4 教育委員会の活動状況について

教育委員会の活動状況については、教育委員会議の定期開催、教育委員による学校訪問、各種事業への参加など、教育行政の基本的な役割が適切に果たされているものと認められる。

今後も、教育委員会が学校、家庭、地域の状況を的確に把握し、教育現場の課題や町民のニーズを踏まえた施策の推進に努めることを期待する。

5 教育推進計画に基づく内部評価への意見

(1) 確かな学力の育成、情報教育の充実（施策項目 1、4）

全国学力・学習状況調査の結果を分析し、授業改善や補充学習に活用している点は評価できる。

I C Tを活用して指導できる教員が8割を超えているが、依然として苦手意識を持つ教員も存在する。デジタル教科書への移行を見据え、指導力の向上を目指した継続的な研修と、教員間での好事例の共有が望まれる。

(2) 学校運営の改善（施策項目 1 2）

働き方改革として「蘭越町アクションプラン」に基づき、学校閉庁日や定時退勤日が定着しているが、教頭など特定の職位に業務が集中し、月45時間を超える超過勤務が常態化しているケースが見受けられる。行事の精選や会議の簡略化をさらに進め、業務の平準化を一層推進する必要がある。

中学校の部活動において、平日の部活動指導員の活用や休日の地域展開が進んでいる点は、教職員の負担軽減の観点から高く評価できる。

(3) ふるさと教育、生涯学習施設・文化の振興（施策項目 6、16、20）

地域資源を教育活動に積極的に取り入れている点は評価できる。郷土ゆかりの文化資産である曲子光男氏の絵画展示ギャラリーと収蔵庫が蘭越中学校内の「ふるさと学習館」に整備され、オープンに向けて準備が進んでいることは、郷土への愛着を育む上で非常に意義深い。広く町民に親しまれるよう積極的な公開を期待する。

町民センターの施設予約について、「マチナビらんこし」アプリからのオンライン利用申請が開始されたが、高齢者にはハードルが高い現状がある。利便性の向上と丁寧な周知により、利用促進を図ることが課題である。

(4) 地域に根ざした高校づくり、スポーツ振興（施策項目 15、26、27）

蘭越中学校からの入学率が50%に達したことは、中高連携や魅力発信の成果であり、高く評価できる。

「らんスポ」は、休日の中学校部活動の受け皿のみならず、蘭越高校の卓球の受け皿となっており活動が充実している一方で、指導者の高齢化が将来的な課題である。大学や専門機関との連携、あるいは民間企業との提携（中学校野球部メソッドベースの事例等）を検討し、質の高い指導体制を維持・発展させていくことが望まれる。

目名サッカー場等の活用について、宿泊環境等の要件を精査し、キャンプ地誘致などによる地域活性化の可能性を引き続き検討する必要がある。

6 学校評価資料等について

各小中学校から提出される学校評価資料について、現状では様式が統一されておらず（コミュニティ・スクールの意見の有無など）、比較や全体把握がしにくい側面がある。説明の付記や様式の統一性を高めることが望ましい。

7 今後に向けて

教育委員会には、今回の点検・評価で明らかになった成果を継続しつつ、以下の点に留意して取り組まれることを期待する。

家庭連携の強化： 家庭学習の習慣化や読書活動、朝食摂取率の向上など、学校内だけでは解決が難しい課題について、保護者への効果的な啓発と協力を要請すること。

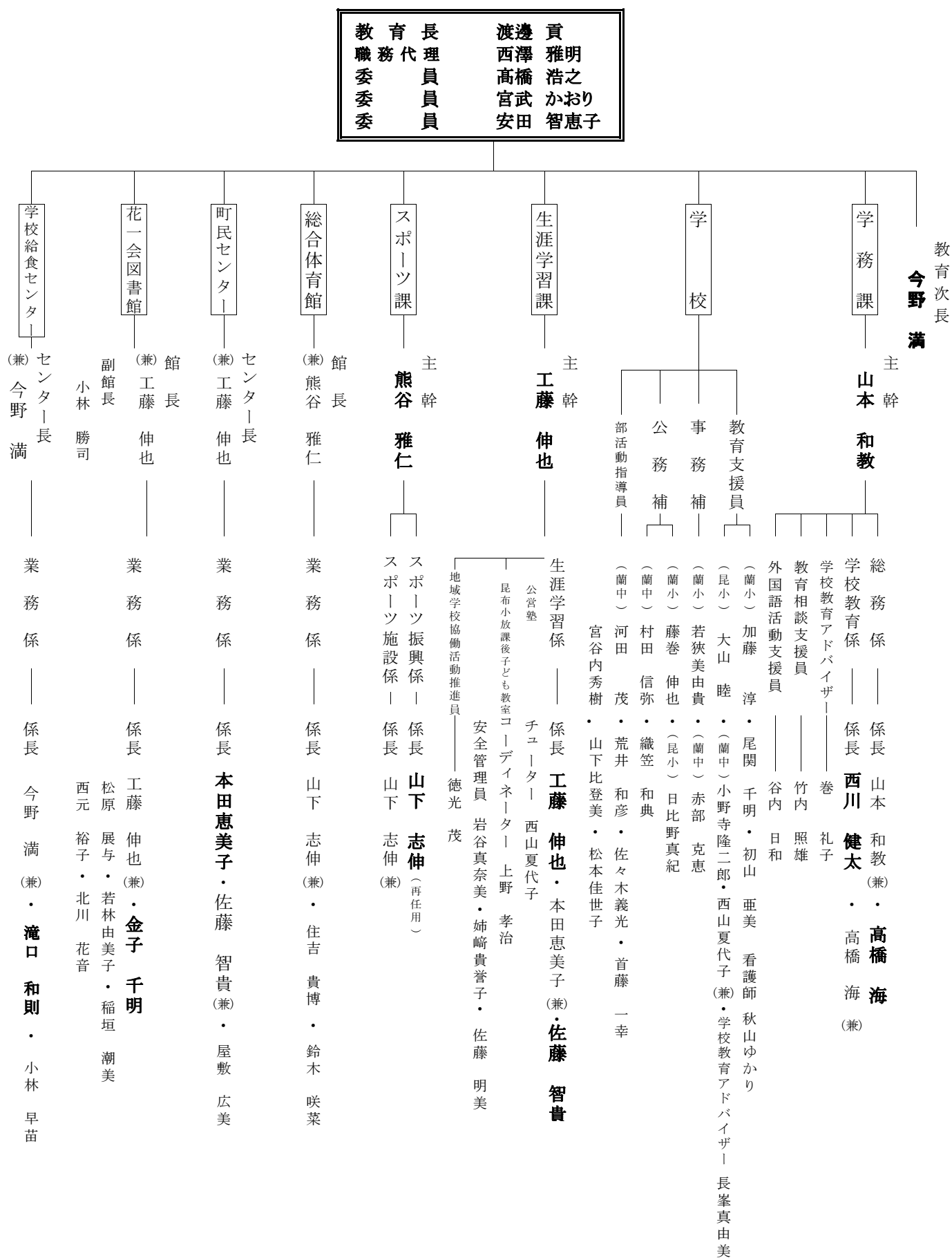
外部リソースの活用： スポーツ指導者やICT支援、学力補充などにおいて、大学や民間企業等の専門性を積極的に取り入れ、教職員の負担軽減と教育の質の向上を両立させること。

持続可能な教育体制： 部活動の完全地域移行や少子化に伴う学校規模の課題、指導者確保などに対し、中長期的な視点を持って計画的に対応すること。

資 料

1 教育委員会行政組織機構図

令和7年4月1日



2 学校の児童生徒・教職員数

児童生徒数

令和7年5月1日現在

学 校 名	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	計
昆布小学校	2	1 5	7	8	9	8	4 9
蘭越小学校	2 0	2 3	1 7	2 1	2 6	3 1	1 3 8
小学校計	2 2	3 8	2 4	2 9	3 5	3 9	1 8 7
蘭越中学校	3 2	2 7	3 5				9 4
計							2 8 1

教職員数

令和7年5月1日現在

(道費負担職員)

学 校 名	教 員	養護教諭	事務職員	栄養教諭	合計
昆布小学校	9	1	1		1 1
蘭越小学校	1 7	1	1	2	2 1
蘭越中学校	1 1	2	1		1 4
計	3 7	4	3	2	4 6

※休職、期付含む

(町費負担職員)

学 校 名	支援員	事務補	公務補	看護師	合計
昆布小学校	1		1		2
蘭越小学校	3	1	1	1	6
蘭越中学校	2	1	2		5
計	6	2	4	1	1 3

3 施設利用者数

(1) 町民センター利用者

生涯学習 サークル		各種教室・会議 等		商工会・コミュ ニティ団体		行政関係・その 他		合 計	
件数	利用者数	件数	利用者数	件数	利用者数	件数	利用者数	件数	利用者数
896	4,394	175	2,485	95	3,157	276	5,001	1,442	15,037

(2) 町民プール利用者

幼 児	小学生	中学生	高校・一般	団 体	町外者	計
312	1,083	193	924	1,598	189	4,299

(3) 体育施設利用者

総合体育館		運 動 公 園				山 村 広 場		
一 般	団 体	野球場	こぶし パーク	ゲート ボール	XCスキー 他公園施設	多目的 広 場	サーモン パーク	テニス コート
17,842	7,791	3,649	132	457	未集計			918
25,633		4,238				918		

(4) 目名サッカー場利用者

	幼児	少年団	中学校	その他	観客	計
利用日数	0	44	0	高0 一般22		66
利用者数	0	2,289	0	高0 一般22		2,377

(5) トレーニング室利用者

	男子	女子	計
町内利用者	2,687	1,899	4,586
町外利用者	604	154	758

(6) 花一会図書館利用者

来館者数	貸出冊数	新規登録者
23,553 人	62,109 冊	153 人

令和7年度 蘭越町立昆布小学校 学校評価

学校教育 目標	たくましく 学び合い(知) ひびき合い(情) みがき合い(意・体)	経営の 重点	「自ら気づき 考え 伝え合い高め合う子どもの育成」	評価方法 ○教職員アンケート(設問数22)保護者アンケート(設問数10)、児童アンケート(設問数13)、後志管内教育推進の重点(設問数:教職員11、保護者8、児童8)について実施。 ※ 7月に第1回目の評価を行い、その集計結果を基に改善を図り、12月に再度改善を図るための最終的な評価を行う。 ○教職員アンケート、保護者アンケート、児童アンケートの集計結果・考察をもとにした、学校関係者評価を行う。 ◎後期も同内容で評価を実施した。	評価基準 4 十分達成されている 3 ほぼ達成されている 2 あまり達成されていない 1 全く達成されていない	学校運営協議会昆布小学校部会		
						委員		
						部会長 大室 真一 山田 恵	校長 西谷 暢幸 志比川 武	高橋 洋介 林 千恵

蘭越町立昆布小学校

校長 西谷 暢幸



評価計画																			学校運営協議 会専門部会に よる評価の妥 当性	学校運営協議会 専門部会からの 意見要望
重点目標		教職員評価項目		第1回	第2回	保護者評価項目		第1回	第2回	児童評価項目		第1回	第2回	第1回 平均	第2回 平均	分析・考察	改善策			
知識及び技能の習得と思考力・判断力・表現力、ツール活用能力の育成	1	主体的な学びによる確かな学力の向上を図っている。(主体的で対話的な深い学びの視点による指導方法の改善 「個人思考」と「集団思考」の場面の定着 ゴールを明確にした授業づくり)		3.4	3.4	学校では、授業内容の充実による一人一人のよさを生かし、個別指導やグループ学習など基礎学力を高めていく中で、自分の考えを表現できるよう、取組を進めてきましたが、御家庭からみていかがでしたか。		3.6	3.7	(低)自分の考えを発表したり、友達の話をしっかり聞いたりすることができる。 (中)自分の考えをわかりやすく伝えたり、友達の発表を自分の考えを比べたりすることができる。 (高)自分の考えを分かりやすく伝えたり、友達の意見を聞いたりして、みんなの意見や考えをまとめることができる。		3.2	3.1	3.4	3.4	【重点項目】自分の考えをもとにした交流を行える機会が増えている。児童の実感が広がるよう今後さらに推進する。	来年度も、重点目標として自ら学びを深める力を伸ばしていきたい。	妥当		
	2	家庭学習の習慣化と学習機会や時間の確保を図っている。(学習方法の提示 自主ノートの点検や交流 放課後の学習活動の実施)		3.4	3.3	学校では「家庭学習の手引き」にもとづき、家庭学習の習慣化を測るための取組を進めてきましたが、御家庭ではいかがでしたか。		3.0	3.2	毎日家庭学習をしている。(1年生10分 2年生20分 3年生30分 4年生40分 5年生50分 6年生60分以上)		2.7	2.9	3.0	3.1	昨年度より微増。各学級における指導と掲示板による啓発を続けて少しずつ定着し始めている。	今後も発達段階に応じた取組を継続する。			
	3	学習過程が統一され、子どもたちも学習のしかたが浸透しているか。(自分たちで考え学習を進めていく力)		3.2	3.4					(低)次に自分が何をしたらいいかがわかる。 (中)次に何をしたらいいかがわかり、自分たちで学習を進めることができる。 (高)学習のしかたを自分なりに考えて進めることができる。		3.2	3.3	3.2	3.4	【重点項目】目標値に近づいた。昆布小学校の学習の流れを新たな職員も理解し、定着させることができた。	複式の良さであるところの、学習リーダーを中心とした自主的な学習の仕方の定着を、今後も進めていく。			
	4	子どもの学びを保障するため年間指導計画を工夫・改善し、指導の充実を図る。(各教科等の年間指導計画の適切な実施と工夫・改善)		3.0	3.1	学校では、探究的に地域を学ぶため地域人材を積極的に活用した、総合的な学習の指導の改善充実を図る取組を進めてきましたが、御家庭からみていかがでしたか。		3.6	3.7	(低)生活科の学習などでは、学校の周りの虫や草花を調べたり観察したりしている。 (中)総合的な学習の時間などでは、昆布や蘭越の自然について学習している。 (高)総合的な学習の時間などでは、昆布や蘭越の産業について調べ学習をしている。		3.6	3.7	3.4	3.5	総合的な学習の時間のカリキュラムを、町の方針に沿ったものに作り替えることができた。	地域人材の活用を今後も年間指導計画へ組み入れて進めていく。			
	5	情報活用能力の向上と情報モラルの徹底を図る。(リモート授業実施のための校内研修の推進及びプログラミング教育を取り入れた教科指導の実施 ICT機器の活用 情報モラルの向上 リモート学習の導入)		3.3	3.7	学校では、子どもたちがICT機器に慣れ親しめるようにと、タブレット等を積極的に使用した授業を進めてきましたが、御家庭から見ていかがでしたか。		3.4	3.6	学校では、タブレットや実物投影機などをよく使って学習している。		3.7	3.9	3.5	3.7	【重点項目】目標値を達成できた。チャレンジテスト、AIDドリル、電子黒板の利用など、多くの場面で活用できている。	今後も活用し、児童の学びが深まるようにしていく。			
	6	効果的な教育活動によるキャリア教育の充実を図る。(各教科、特別活動、総合的な学習の時間等の学習活動を通じた横断的なキャリア教育の推進。キャリアパスポートの活用)		2.7	2.7									2.7	2.7					
学びに向かう力と協調性、健やかな体の育成	7	道徳的価値と向き合う指導の充実を図っている。(考え論議する道徳科の授業 全教育活動を通じた道徳性の育成 児童の心の成長を促す活動の充実)		3.2	3.1	学校では、授業の充実など道徳科の授業の改善及び道徳教育の充実を図る取り組みを進めてきましたが、御家庭からみていかがでしたか。		3.4	3.5	(道徳では)友だちの考えも聞きながら、何が正しいことなのか、自分で考えることができる。		3.4	3.3	3.3	3.3			妥当		
	8	「共感する」「認め合う」「つながり合う」の意識を高める指導の充実を図っている。(頑張りを認め合う「温かい学校づくり」の推進 いじめを生まない土壌づくり 基本的生活習慣の徹底 気持ちの良い挨拶 相談体制の確立による児童のストレスの緩和 活動への意欲喚起)		3.4	3.6	学校では、学級活動や縦割り班活動など集団の一員として仲間と協調して行動し、いじめアンケートの実施などいじめの未然防止を図る取組を進めてきましたが、御家庭からみていかがでしたか。		3.7	3.5	友だちと助け合ったり、親切にしたりすることができる。		3.5	3.6	3.5	3.6	いじめアンケートを3回実施し、児童の実態をより把握できるようにした。	今後も繰り返し啓発・指導していく。			
	9	新体力テスト等の結果の活用及び健康の保持増進、体力づくりの意識化を図る。(教科体育における新体力テストの結果の活用、全校的な取り組みと放課後子ども教室、スポーツ少年団との連携による運動の習慣化)		3.2	3.3	学校では、体力テスト等で子どもたちの体力を測るとともに、体育の授業の改善や業間遊び、放課後子ども教室やスポーツ少年団との連携などの取組を進めてきましたが、これらの取組は、御家庭からみていかがですか。		3.6	3.7	進んで体育や運動に取り組んでいる。		3.7	3.6	3.5	3.5	全校マラソンは暑さ指数を確認しつつ実施し、安全に行えた。クロカンは用具が充足し実施できている。	次年度も安全に実施し、体力向上に努めていく。			
	10	一人一人の成長や変容が実感できる学校行事の充実・改善を図っている。		3.1	3.1									3.1	3.1					
	11	学習規律の育成についての指導内容の明確化と組織的・継続的な取組を図っている。		3.1	3.1					学校では、学習のきまりをよく守っている。		3.4	3.4	3.3	3.3					
	12	児童の自己肯定感を高める指導、良さを認め励ます関わりを行い、児童が学校を楽しいと思える取組を図っている。		3.6	3.6	学校では、子どもたちが自己肯定感を高めることができる働きかけを行い、「学校に来ることが楽しい」と思える取組を進めてきましたが、これらの取組は、御家庭からみていかがですか。		3.5	3.4	自分には、良いところがあると思う。 学校に来ることが楽しい。 先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思う。		3.3 3.2 3.5	3.4 3.2 3.5	3.5 3.2 3.5	3.5 3.4 3.5	肯定的評価が多く、児童の安心感につながっている。	経年での変化や児童の実態を測る指標としていく。			

教師力の向上	13	専門職としての資質の向上を目指す校内研修の充実を図っている。(授業研究等研修活動の推進 OJTによる資質・能力の向上)	3.1	3.2					3.1	3.2			妥当	紙面だと紛失することもあるので、データによる配付の報が確実なことある。放課後子ども教室の申し込みについて募集は紙面で、案内はデータでなどの方法も検討していく。
	14	教職員の協働体制の充実を図り、業務の効率的な推進を図っている。(働き方改革の推進)(相談体制の構築 組織的な協働体制 職員会議のペーパーレス化や学校行事の見直し、教材等の継続的な使用等による業務内容の改善)	3.0	3.1					3.0	3.1	校務支援システムを有効活用して文書配付や確認のペーパーレス化につなげている。	PTA関係の配付文書など、一部を安心メール配付にしている活用を広げられるか検討していく。		
	15	教育公務員としての服務規律の遵守を図っている	3.6	3.7					3.6	3.7				
	16	危機管理と危機への対応力の充実を図っている。(防災訓練、不審者対策等の充実 安全点検 危機管理マニュアルの見直しと共通理解)	3.2	3.3	学校では、安全、安心に過ごせる教育環境を整えるよう避難訓練や街頭指導、校内外の危険箇所の点検などに取り組んでいましたが、御家庭からみていかがでしたか。	3.7	3.5	登下校の時の交通安全や、休み時間などでけがをしないように気をつけている。	3.4	3.6	3.4	3.5		
	17	特別に支援を必要とする児童への理解を深め、個別の指導・支援計画に基づき組織的な対応を図っている。(支援方策の検討と具体化 研修活動の充実 ユニバーサルデザインの視点からの教室環境の整備)	3.3	3.3					3.3	3.3				
地域とともにある学校づくり	18	教育目標、重点目標の家庭・地域との共通理解と具現化を図っている。(学校グランドデザインの家庭・地域への啓発)	3.2	3.3					3.2	3.3			妥当	
	19	CSとの連携により地域の人的・物的資源を活用した授業実践の推進を図っている。	3.3	3.4					3.3	3.4				
	20	保育所、町内小学校・中学校との交流活動、連携の充実を図っている。	3.1	3.1					3.1	3.1	各校との合同学習や乗り入れ授業など、計画的に推進している。	教育課程交流会を通して各学年実施できるように今後も調整していく。		
	21	各種お便りや懇談会、行事等を通して、分かりやすくタイムリーな情報提供を図っている。	3.5	3.5	学校では、わかりやすく・見やすい情報発信、学校公開等による教育活動の可視化を図る取組を進めてきましたが、御家庭からみていかがでしたか。	3.5	3.4		3.5	3.5				
	22	学校評価や月別学校運営計画等を活用し、PDCAサイクルによる実践事項の評価、教育課程への反映を図る。	3.2	3.1					3.2	3.1				
後志管内教育推進の重点	1	児童は「学校を楽しい」と感じている。	3.6	3.6	児童は「学校は楽しい」と感じている。	3.5	3.3	学校に行くのは楽しいと思う。	3.2	3.2	3.4	3.4	妥当	
	2	学校はPC／タブレットなどのICT機器を活用している。	3.3	3.7	学校はPC／タブレットなどのICT機器を活用している。	3.4	3.4	学校で、パソコンやタブレットなどを使って勉強している。	3.7	3.9	3.5	3.7		
	3	学校の授業は、児童一人一人に合った教え方、教材、学習時間などになっている。	3.2	3.3	学校の授業は、児童一人一人に合った教え方、教材、学習時間などになっている。	3.4	3.4	学校の勉強は自分に合っていると思う。	3.3	3.4	3.3	3.4		
	4	児童は「自分には、よいところがある」と感じている。	3.5	3.6	児童は「自分には、よいところがある」と感じることができている。	3.4	3.5	自分にはよいところがある。	3.3	3.4	3.4	3.5		
	5	先生は、児童のよいところを認めている。	3.8	3.8	先生は、児童のよいところを認めてくれている。	3.8	3.8	先生は、自分のよいところを認めてくれている。	3.5	3.5	3.7	3.7		
	6	児童は、いじめは、どんな理由があっても、いけないことだと理解できている。	3.4	3.6	児童は、いじめは、どんな理由があってもいけないことだと学べている。	3.7	3.4	いじめは、どんな理由があっても、してはいけない。	4.0	3.9	3.7	3.6		
	7	児童は、地域や社会をよくするために、何かしてみたいと思えている。	2.9	3.0	児童は、地域や社会をよくするために、何かしてみたいと思えている。	3.1	3.2	地域や、社会が良くなるように、何かしてみたいと思う。	3.5	3.5	3.2	3.2		
	8	児童は、将来の夢や目標をもっている。	3.2	3.2	児童は、将来の夢や目標をもっている。	3.2	3.0	将来の夢や目標をもっている。	3.8	3.7	3.4	3.3		
	9	学校の仕事を楽しんでいる。	3.4	3.4							3.4	3.4		
	10	職場の居心地がよい。	3.1	3.3							3.1	3.3		
	11	子どもの成長を実感している。	3.7	3.7							3.7	3.7		

教職員アンケート

設問番号	設問	評価A(%)	評価B(%)	評価C(%)	評価D(%)	評価	評価 (A+B)
1	学習規律の指導を継続的に行うことにより、学習の準備や姿勢、約束事などが身についた。	17.6% (30%)	76.5% (65%)	5.9% (5%)	0% (0%)	3.1 (3.1)	94.1%
2	自分から進んでじっくり学習したり、友達と協力して学ぶなど、「学び方」の基礎が定着した。	11.8% (35%)	76.4% (55%)	11.8% (10%)	0% (0%)	3.0 (3.2)	88.2%
3	支援員の活用や、まとめ・振り返り、宿題・家庭学習の取組等により、学習内容の基礎・基本が定着した。	17.6% (25%)	76.5% (65%)	0% (10%)	5.9% (0%)	3.1 (3.1)	94.1%
4	学校は一人一台端末などICT機器を活用して、一人一人に合った授業の構築に取り組んでいた。	29.4% (25%)	53.0% (65%)	17.6% (10%)	0% (0%)	3.1 (3.1)	82.4%
5	集団生活でのルールやマナー指導、健康教育や食育指導で、基本的な生活習慣が定着していた。	17.6% (35%)	70.6% (60%)	11.8% (5%)	0% (0%)	3.1 (3.3)	88.2%
6	様々な体育活動を行い、体力テストの結果をもとに改善を図りながら継続的に取り組んでいた。	17.6% (45%)	64.8% (50%)	17.6% (5%)	0% (0%)	3.0 (3.1)	82.3%
7	防災教育や情報モラルの指導などを通して、児童は安全な生活を送るための意欲が高まった。	17.6% (25%)	64.8% (75%)	17.6% (0%)	0% (0%)	3.0 (3.3)	82.3%
8	児童が学級への所属感や連帯感を持ち、活動が楽しいと感じる学級づくりが行われていた。	23.5% (38%)	70.6% (62%)	0% (0%)	5.9% (0%)	3.1 (3.2)	94.1%
9	行事や児童会活動、他学年との交流を通して、児童は自分や友達のよさに気づくことができた。	47.1% (52%)	47.0% (48%)	5.9% (0%)	0% (0%)	3.4 (3.5)	94.1%
10	道徳の授業を軸にあらゆる場面で、生命を尊重する心、規範意識や他を思いやる心を育てていた。	17.6% (24%)	70.7% (76%)	11.7% (0%)	0% (0%)	3.1 (3.2)	88.2%
11	地域の特色を活かした学習、他校との合同学習、参観日など、保護者や地域との連携が図られていた。	41.2% (29%)	52.9% (71%)	5.9% (0%)	0% (0%)	3.4 (3.4)	94.1%
12	教職員は児童一人一人を大切に、温かく共感的な態度で接していた。	41.2% (71%)	47.0% (29%)	11.8% (0%)	0% (0%)	3.3 (3.5)	88.2%
13	学校は活気があり、明るく生き生きとした雰囲気である。	29.4% (71%)	70.6% (29%)	0% (0%)	0% (0%)	3.3 (3.5)	100.0%

※ () は前期評価

どの項目においても高評価であった。これからも教職員全員で目の前の子どもたちに寄り添っていく。前期より下がっているところは子どもたちをより深く見た結果であると考えられる。項目の1、3、8、9、11、13で90%を超える結果となった。保護者アンケート同様「学校は活気があり、明るく生き生きとした雰囲気である。」は肯定的な回答が100%であった。

A	良い	4点
B	おおむね良い	3点
C	もう少し	2点
D	要努力	1点

保護者アンケート

設問番号	設問	評価A(%)	評価B(%)	評価C(%)	評価D(%)	評価	評価(A+B)
1	学習規律の指導を継続的に行うことにより、学習の準備や姿勢、約束事などが身についた。	27.7% (25.0%)	61.7% (61.7%)	10.6% (14.7%)	0% (0%)	3.2 (3.1)	89.4%
2	自分から進んでじっくり学習したり、友達と協力して学ぶなど、「学び方」の基礎が定着した。	34.0% (26.9%)	55.4% (61.2%)	10.6% (11.9%)	0% (0%)	3.2 (3.2)	89.4%
3	支援員の活用や、まとめ・振り返り、宿題・家庭学習の取組等により、学習内容の基礎・基本が定着した。	34.0% (26.4%)	53.2% (55.9%)	12.8% (16.2%)	0% (1.5%)	3.2 (3.1)	87.2%
4	集団生活でのルールやマナー指導、健康教育や食育指導で、基本的な生活習慣が定着していた。	36.2% (29.4%)	42.6% (54.4%)	21.2% (1.5%)	0% (0%)	3.1 (3.1)	78.7%
5	集団生活でのルールやマナー指導、健康教育や食育指導で、基本的な生活習慣が定着していた。	40.4% (33.8%)	44.7% (54.4%)	14.9% (10.3%)	0% (0%)	3.3 (3.3)	85.1%
6	様々な体育活動を行い、体力テストの結果をもとに改善を図りながら継続的に取り組んでいた。	36.2% (32.4%)	51.1% (50.0%)	12.7% (17.6%)	0% (0%)	3.2 (3.1)	87.2%
7	防災教育や情報モラルの指導などを通して、児童は安全な生活を送るための意欲が高まった。	40.4% (33.8%)	53.2% (57.4%)	4.3% (8.8%)	2.1% (0%)	3.3 (3.3)	93.6%
8	児童が学級への所属感や連帯感を持ち、活動が楽しいと感じる学級づくりが行われていた。	42.6% (35.3%)	44.7% (52.9%)	12.7% (10.3%)	0% (0%)	3.3 (3.2)	87.2%
9	行事や児童会活動、他学年との交流を通して、児童は自分や友達のよさに気づくことができた。	48.9% (38.2%)	42.6% (52.9%)	8.5% (8.8%)	0% (0%)	3.4 (3.3)	91.4%
10	道徳の授業を軸にあらゆる場面で、生命を尊重する心、規範意識や他を思いやる心を育てていた。	29.8% (29.4%)	61.7% (58.8%)	8.5% (11.8%)	0% (0%)	3.2 (3.2)	91.5%
11	地域の特色を活かした学習、他校との合同学習、参観日など、保護者や地域との連携が図られていた。	42.6% (42.6%)	51.1% (52.9%)	6.3% (4.4%)	0% (0%)	3.4 (3.4)	93.6%
12	教職員は児童一人一人を大切に、温かく共感的な態度で接していた。	40.4% (44.1%)	51.1% (44.1%)	8.5% (11.8%)	0% (0%)	3.3 (3.3)	91.5%
13	学校は活気があり、明るく生き生きとした雰囲気である。	48.9% (40.0%)	51.1% (51.0%)	0% (9%)	0% (0%)	3.5 (3.3)	100.0%

※ ()は前期評価

前期後期通して高評価を得ることができた。「学習規律の指導」や「学びの基礎の定着」など、学習に関する項目では評価ABが80%以上を占め、概ね良好な評価となりました。

項目7、9、10、11、12、13では、評価ABが90%を超える高い評価となりました。「学校は活気があり、明るく生き生きとした雰囲気である」では、評価ABが100%と最も高い評価となりました。これからも子どもたちが安心・安全な居場所づくりになるよう取り組んでいきます。

2025年度 蘭越町立蘭越中学校 学校評価

学校教育目標
○力のある ねらいをもって 学び続ける生徒
○豊かな心を持つ 明るくて 思いやりのある生徒
○強い意志を持つ 深く考えて 実行する生徒
○心身ともに健康な ねばり強く て たくましい生徒

令和7年度重点目標
自分の考えを持って
互いに認め合い
高め合う生徒の育成

令和7年度学校経営の重点
○「互いを認め合う」活動を取り入れた学習指導
○温かい学校・学級づくり
○安全・安心な学校環境の構築
○信頼される学校づくり ○地域の中の学校

コミュニティスクール中学校部会
学校：寺口由之（校長）、原田美穂子（教諭）
委員：小澤 修、谷口昌弘、河西奈々

蘭越町立蘭越中学校
校長 寺 口 由 之 印

	No.	アンケート項目	前期			後期			全体 評価	分析・考察	改善策	学校運営協議 会による評価の 妥当性	学校運営協議会専門部会 からの意見要望
			教職員	保護者	生徒	教職員	保護者	生徒					
「互いを認め合う」学習指導の展開を取り入れた	1	生徒は、授業の内容を理解している。	2.8	3.0	3.2	↓ 2.6	⇒ 3.0	↓ 3.0	2.9	①授業内容についてのポイントが低いものの、ICT環境の改善による学習形態の工夫に対して、教職員はまだ自信を持つほどの手応えを持っていないと思われる。 ②・③家庭学習や読書・読解について、課題が見られる。 ④・⑤・⑥ともポイントが上昇した。ICT環境が整ったことで授業改善に努め、個別最適な学びを実践しつつ、協働的な学びとしてお互いを尊重し他者を認める学習活動や、他者の考えに触れながら思考を深める学習を進めるなど学習形態の工夫が功を奏していると考えられる。 ⑦総合的な学習の時間で系統立てて行ってきたキャリア教育が一定の功を奏していると考えられる。 ⑧体力・運動能力のポイントは高い。保健体育に加えて部活動や少年団活動への意識が高いと考えられる。	○生徒が自ら学びを進める学習活動へとシフトできるよう、自信を持って授業改善を推進していく。 ○AIドリルを有効に活用するなど家庭学習の定着を図っていきたい。 ○学校教育全体で、個別最適と協働の一体的な充実を図っていく。お互いの個を大切にしつつ、人とのつながりも大切にし、他者と協働して課題を解決していく活動を推進していく。 ○探求的な学びを取り入れ、これまでの成果を踏まえてスリム化しつつもキャリア教育を継続していく。 ○体力向上をさらに進めるため、持続的な部活動指導員の配置、らんスポへの地域展開など、学校と地域が一体となって体力向上を目指したい。	妥当	○ICTの活用を工夫し、個々に学習を進め自ら学ぶ授業スタイルを模索しながら授業改善をしていることが見受けられる。個々の進捗が異なることで取り残される生徒がいないよう配慮しつつ、先に進む生徒も満足できる授業を目指してほしい。ぜひ、授業参観したい。
	2	生徒は、予習・復習など、家庭学習に取り組んでいる。	2.3	2.5	2.4	⇒ 2.3	↓ 2.4	⇒ 2.4					
	3	生徒は、文章を読むことに慣れている。	2.4	2.6	3.0	↑ 2.5	↑ 2.9	↓ 2.8					
	4	学校は、個に応じた学習を行っている。	2.9	2.8	3.0	↑ 3.2	↑ 3.0	⇒ 2.9					
	5	生徒は、自分の考えを持って、お互いを認め合い、高め合っている。	2.9	3.0	3.3	↑ 3.2	⇒ 3.0	⇒ 3.2					
	6	生徒は、あきらめることなく学習に取り組んでいる。	2.4	3.0	3.0	↑ 2.6	⇒ 2.9	⇒ 3.0					
	7	生徒は、今後の進路や職業について、自分なりの考えを持っている。	2.6	2.9	3.0	↑ 2.8	⇒ 2.9	⇒ 3.0					
	8	学校は、体力の向上や健康な体づくりに取り組んでいる。	2.9	3.1	3.4	↓ 2.7	⇒ 3.1	↓ 3.2					
温かい学校・学級づくり	9	生徒は、気持ちのよいあいさつや言葉遣いができている。	2.8	3.1	3.1	⇒ 2.8	⇒ 3.1	⇒ 3.1	3.1	⑨挨拶・言葉遣いについては、高いポイントを示している。 ⑩・⑪・⑫安定したコミュニケーションを土台に、他者からも認められていると感じているものの、学校生活の楽しさに対し、生徒のポイントは停滞している。	○挨拶や言葉遣いが大切なことは生徒も理解しているので、生徒が自ら生活を振り返り、気持ちのよい人間関係の構築を高める仕掛けを行っていきたい。 ○嫌な思いをする言動には敏感に対処しつつ、他を認める言動を意識的に取り上げる。また、生徒の手で学校が楽しいと感ずることができるような取組を行い、さらに心理的安全性の高い学級・学校づくりを行っていく。また、①と関連し、わかる授業のための授業改善を行い、学校生活への意欲を向上させたい。	妥当	○生徒があいさつやコミュニケーションを大切にしている様子が、町の中でも見られる。保育所開放では、中学生が明るい表情で参加し、幼児たちと楽しく接して大変盛り上がりがあった。 ○今後も「学校通うことが楽しみ」の項目の向上に向け、取組を継続してもらいたい。
	10	生徒は、学校に通うことを楽しみにしている。	2.8	3.0	3.0	↑ 3.1	⇒ 2.9	↓ 2.9					
	11	生徒は、自分のよいところを、認めてもらっている。	3.4	3.1	3.2	↓ 3.3	⇒ 3.1	↓ 3.1					
	12	生徒は、友達や家族と上手にコミュニケーションを取っている。	2.6	3.2	3.3	↑ 2.9	↑ 3.4	⇒ 3.3					
安全・安心な学校環境の構築	13	生徒は、善悪の判断や思いやりの気持ちをもっている。	3.0	3.4	3.3	↑ 3.2	⇒ 3.4	⇒ 3.3	3.1	⑬・⑭思いやりやいじめ防止の観点において良好なポイントを示している。 ⑮・⑯生徒は大きなポイント上昇となった。生徒が生活リズムを改善し、スマホ利用のルールを守る意識の高まりが見られた。	○生徒指導部や生徒会を中心に、心理的安全性が担保され、善悪の判断を大切に、思いやりを大切にすることで、いじめが起きにくく、安心・安全で過ごしやすい学校づくりのための活動を継続する。 ○タブレットを持ち帰り家庭学習での利用機会を増やすことで、家庭学習の定着を図ることに加えて、生活リズムとスマホ利用のルールを守る意識の向上につなげたい。	妥当	○生徒の評価は高いので、家庭との連携を図りスマホ利用のルールを守る意識を高められるよう指導を続けてほしい。 ○生徒と教職員はSNSでつながらないことを徹底することや、家庭での指導が大切である認識を高める取り組みを継続してほしい。
	14	学校は、いじめの防止や早期発見・早期解決に取り組んでいる。	3.4	3.0	3.2	↑ 3.5	⇒ 3.1	↓ 3.0					
	15	生徒は、規則正しい生活を送っている。	2.6	3.1	2.9	↑ 2.8	↓ 2.9	↑ 3.1					
	16	生徒は、スマホ等の利用について、家庭のルールを守っている。	3.0	2.8	3.1	↓ 2.8	⇒ 2.7	↑ 3.3					
信頼される学校	17	学校は、小学校や高校と連携した取組を行っている。	3.0	2.9		↓ 2.9	↑ 3.1		3.2	⑰・⑱・⑲とも高いポイントを示している。 ○中1ギャップ、高1クライシスを緩和し、系統立てて、安心して進学できるよう継続する。 ○探求的な学びを取り入れた総合的な学習の時間へと移行していく中で、地学協働コーディネーターと連携し、地域に根ざした活動を目指していく。	妥当	○職場体験をはじめ地学協働コーディネーターとの連携や町長出前授業などにより、地域の魅力を再発見し地域に根差した学びを展開できるような取組を継続してほしい。	
	18	学校は、学校だよりや学級通信等により、学校の様子を保護者や地域に伝えている。	3.6	3.4		↓ 3.4	⇒ 3.4						
	19	学校は、職業体験や、地域から講師を招くなど、蘭越町について学ぶ機会を設けている。	3.4	3.3		↓ 3.3	⇒ 3.4						